

小畑敏四郎関係文書目録

2024年1月

国立国会図書館憲政資料室

目録・最新の概要情報はウェブサイトに掲載しています

国立国会図書館リサーチ・ナビ「憲政資料（憲政資料室）」

(<https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/kensei/>)

凡例

○目録の記述項目

- 資料番号、タイトル、作成者、宛先、年月日、数量、内容、付属資料、記述法、用紙、備考、合綴注記を採録した。
- タイトルは原則として資料の原題に基づくが、目録作成者が適宜付与したものには〔 〕を付した。
- 作成者、宛先、年月日で、目録作成者が推定したものには〔 〕を付した。
- 数量については付属資料のある場合、付属資料の数量を加えずに数えた。
第一次受入分については、一資料中に形態が異なるものが複数存在する場合、1枚+1綴というように数えた。
- 整理にあたりホチキスなどの金属類の除去を行った。このことについての記述はしていない。

○目録の構成等

■第一次受入分（資料番号1～335）

- 書簡の部と書類の部に分類した。
- 書類の部は、小畑が作成・取得したもの（2.1～2.7）のほか、小畑死後において子息又雄氏が作成・取得した小畑研究の資料（2.8）が含まれる。
- 第一次受入分の目録は、憲政資料室が大江洋代氏（当館非常勤調査員）に依頼して作成したものである。

■第二次受入分（資料番号336～404）

- 書簡の部と書類の部に分類した。
- 第二次受入分の目録は、憲政資料室が藤枝賢治氏に依頼して作成したものである。

小畑敏四郎関係文書

第一次受入分 (資料番号1~335)

1. 書簡の部 (資料番号1~162)

- 1.1 小畑敏四郎宛書簡 (資料番号1~134)
- 1.2 小畑敏四郎発書簡 (資料番号135~154)
- 1.3 第三者間書簡 (資料番号155~162)

2. 書類の部 (資料番号163~335)

- 2.1 手帳等 (資料番号163~185)
- 2.2 ロシア駐在時代(1915~18年・1920~23年) (資料番号186~206)
 - 2.2.1 公用旅券
 - 2.2.2 電報
 - 2.2.3 情報収集・分析
- 2.3 参謀本部部員(1919~20年)、参謀本部第三部長(1932年~35年)、歩兵第十連隊長時代(1928~1931年) (資料番号207~210)
- 2.4 予備役時代(1936~45年) (資料番号211~221)
 - 2.4.1 留守第十四師団長
 - 2.4.2 陸軍派閥抗争に関する回想
 - 2.4.3 津野田事件(東条英機暗殺計画)
 - 2.4.4 終戦工作
 - 2.4.5 揮毫
- 2.5 国務大臣時代(1945年) (資料番号222~262)
 - 2.5.1 陸軍関係
 - 2.5.2 閣議等配布資料
 - 2.5.3 新聞雑誌切抜き・情報収集
 - 2.5.4 その他
- 2.6 履歴資料 (資料番号263~271)
 - 2.6.1 位記・勲記・写真
 - 2.6.2 葬儀
- 2.7 土地家屋関係 (資料番号272~287)
 - 2.7.1 白金
 - 2.7.2 世田谷
 - 2.7.3 国分寺
 - 2.7.4 その他
- 2.8 子息又雄氏による小畑敏四郎研究資料 (資料番号288~326)
 - 2.8.1 又雄氏による回想
 - 2.8.2 又雄氏収集小畑敏四郎記事(雑誌等)
 - 2.8.3 伝記編纂(一雄・又雄氏宛書簡)
- 2.9 年代不明 (資料番号327~335)

第二次受入分 (資料番号336~404)

1. 書簡・招待状等 (資料番号336~389)

2. 書類 (資料番号390~404)

- 2.1 予備役時代(1936~45年) (資料番号390~392)
- 2.2 国務大臣時代(1945年) (資料番号393~394)
- 2.3 履歴資料等 (資料番号395~401)
- 2.4 その他 (資料番号402~404)

資料 番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
第一次受入分（資料番号1～335）					
1. 書簡の部（資料番号1～162）					
1.1 小畑敏四郎宛書簡（資料番号1～134）					
1	赤柴八重蔵書簡	赤柴八重蔵	小畑敏四郎	2月29日	数量 1通 内容 御懇書の件は東京師団に調査し判明、戦術教育を賜り感謝、聖戦に参加し重責を果たす。 記述法 墨書 備考 封筒なし、冒頭と3枚目が欠損している模様。赤柴の最終階級は陸軍中将。 合綴注記 もと134に収納
2	秋葉泰二書簡	秋葉泰二(満洲第308部隊安斉隊)	小畑敏四郎		数量 1通 内容 元気に御奉公、満洲はあまりに平穏で勿体なく感じる。 記述法 ペン 備考 葉書、軍事郵便、検閲済み 合綴注記 もと161に収納
3	秋元□郎書簡	秋元□郎	小畑敏四郎	〔昭和20年〕	数量 1通 内容 「御就任を祝す」と書き込まれた秋元春朝の名刺 記述法 ペン 備考 □は印鑑のカスレ 合綴注記 もと162に収納
4	天野芳太郎書簡	天野芳太郎	小畑敏四郎	昭和20年12月30日	数量 1通 内容 吉田外相との会談予定日に九州旅行に行っていたことに対する詫び 記述法 墨書 備考 天野は実業家
5	天野芳太郎書簡	天野芳太郎	小畑敏四郎	昭和21年2月10日	数量 1通 内容 本日吉田外相との面談約束を取り付けたが、国務多激でキャンセルに。3月初旬に再トライしてみる。 付属資料 天野宛吉田外相秘書官電報、1通 記述法 墨書
6	天野芳太郎書簡	天野芳太郎	小畑敏四郎	昭和21年4月4日	数量 1通 内容 小畑の紹介した人物に面会しなかったことに対する詫び 記述法 墨書 備考 切手はがれ

小畑敏四郎関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
7	天野芳太郎書簡	天野芳太郎	小畑敏四郎	〔昭和22年〕7月13日	<p>数量 1通</p> <p>内容 外務省で寺崎次官に面会、小生の案に大賛成、総理に話したところ、適当な人物に調査させるとのことだが、国が救われれば誰でもよい。</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 封筒なし、朱色傍線書込みあり</p>
8	荒木貞夫書簡	荒木貞夫	小畑敏四郎	〔昭和21年〕5月18日	<p>数量 1通</p> <p>内容 吉田君大任を拝命、難局乗り切るや今少し細心の注意。裁判の様子は菅原君より聴取の事。此頃は真崎君とも会えず淋しい。A級28名は何れも志を異にしたるものにて何だか妙な気。</p> <p>記述法 ペン</p> <p>備考 封筒なし、巢鴨プリズンからカ</p> <p>合綴注記 もと262の付属資料に封入</p>
9	荒木貞夫書簡	荒木貞夫	小畑敏四郎	〔昭和21年〕7月22日	<p>数量 1通</p> <p>内容 小畑の体調の心配。東京裁判の様子は菅原君より御聴取の事、弁護側の苦心を察するに余りあり、検察側の満州事変に対する証拠証人召喚も峠を越す、何れも相当の苦心。</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 封筒なし、巢鴨プリズンからカ</p> <p>合綴注記 もと262の付属資料に封入</p>
10	荒木貞夫書簡	荒木貞夫	小畑敏四郎	30日	<p>数量 1通</p> <p>内容 小畑の体調の心配。裁判の様子は菅原君より聴取の事、検事側は本1月中旬を以て終わり、弁護団段階へ。</p> <p>記述法 ペン</p> <p>備考 封筒なし、巢鴨プリズンからカ</p> <p>合綴注記 もと262の付属資料に封入</p>
11	猪狩亮介書簡	猪狩亮介	小畑敏四郎	〔昭和20年〕8月24日	<p>数量 1通</p> <p>内容 国務大臣就任激励。工業教育に10年関わり、文部省と折衝してきたのは陸海軍予備後備で唯一であるから役に立ちたい。</p> <p>記述法 墨書、ペン</p> <p>備考 猪狩は陸軍中将</p> <p>合綴注記 もと162に収納</p>
12	猪狩亮介書簡	猪狩亮介	小畑敏四郎	〔昭和20年〕8月25日	<p>数量 1通</p> <p>内容 前便の申出、接受確認</p> <p>記述法 ペン</p> <p>合綴注記 もと162に収納</p>
13	猪狩亮介書簡	猪狩亮介	小畑敏四郎	〔昭和20年〕9月6日	<p>数量 1通</p> <p>内容 文部省当局の態度革新の方策</p> <p>記述法 ペン</p> <p>合綴注記 もと162に収納</p>

小畑敏四郎関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
14	猪狩亮介書簡	猪狩亮介	小畑敏四郎	〔昭和20年〕10月5日	数量 1通 内容 畏友二三会にて提案された新日本建設のために最も急なる議題3点 記述法 ペン 合綴注記 もと162に収納
15	池田譲次書簡【ほか一括】				
15-1	池田譲次書簡	池田譲次	小畑敏四郎	昭和20年8月20日	数量 1通 内容 国務大臣就任激励 記述法 墨書 合綴注記 封筒なし、もと15-2に同封
15-2	池田譲次書簡	池田譲次	小畑敏四郎	昭和20年9月3日	数量 1通 内容 前便(8月20日)が返送されてきた旨とその再送 記述法 墨書 合綴注記 もと15-1を同封
16	石井三郎書簡	石井三郎	小畑敏四郎	〔昭和20年〕	数量 1通 内容 「為国家」と書き込まれた石井三郎の名刺 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
17	伊藤一三書簡	伊藤一三	小畑敏四郎	〔昭和20年〕8月23日	数量 1通 内容 日本開闢以来の国難、一層努力し農民として任務を果たす。 記述法 墨書 備考 伊藤は栃木県の農民 合綴注記 もと162に収納
18	伊藤佐又書簡	伊藤佐又	小畑敏四郎	昭和20年9月17日	数量 1通 内容 4月末例の別荘に送られ9月1日釈放。世事一転、親政感無量、妖雲一掃を祈る。 記述法 墨書 備考 葉書。伊藤は中野学校教官。
19	井上孚麿書簡【ほか一括】				
19-1	井上孚麿書簡	井上孚麿	小畑敏四郎	〔昭和21年〕5月3日	数量 1通 内容 サタデイイブニングポストの記事について 記述法 墨書 備考 葉書 合綴注記 もと19-3に同封
19-2	井上孚麿書簡	井上孚麿	小畑敏四郎	〔昭和21年〕5月15日	数量 1通 内容 和歌 記述法 墨書 備考 葉書、消印なし 合綴注記 もと19-3に同封

小畑敏四郎関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
19-3	井上孚磨書簡	井上孚磨	小畑敏四郎	〔昭和21年〕5月17日	数量 1通(3枚) 内容 帝国弁護士会貴族院憲法委員会の委嘱として多忙。自由党現状では今度の内閣も局面打開の見込なし。 記述法 墨書 合綴注記 もと19-1、2、4を同封
19-4	井上孚磨書簡	井上孚磨	小畑敏四郎	〔昭和21年〕5月24日	数量 1通 内容 和歌 記述法 墨書 備考 葉書 合綴注記 もと19-3に同封
20	井上雅二書簡	井上雅二	小畑敏四郎	昭和20年8月22日	数量 1通 内容 国務大臣就任激励 記述法 ペン 合綴注記 もと162に収納
21	井上靖書簡	井上靖(陸軍中将)	小畑敏四郎	〔昭和20年〕8月25日	数量 1通 内容 国務大臣就任激励。南方戦線で病気となり療養後日産の顧問として勤務。 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
22	植田董子書簡	植田董子	小畑敏四郎	昭和20年9月10日	数量 1通 内容 満洲新京満炭勤務の輝夫等不明家族の状況について 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
23	牛島辰熊書簡	牛島辰熊	小畑敏四郎	10月8日	数量 1通 内容 在任中の苦勞をねぎらう。 記述法 墨書 用紙 内閣用箋 備考 牛島は柔道家
24	梅垣長二書簡	梅垣長二	小畑敏四郎	昭和20年8月19日	数量 1通(4枚) 内容 武装解除の際の軍使に行かないよう願う。罹災後、疎開先にあった郡是工業の重役となる。郡是社長の親戚である芦田均を通じて、小生の会社参加に関し政府の内命を出してほしい。賠償金問題、朝鮮人問題等。 記述法 ペン 備考 2枚目の中心部が破り取られている 合綴注記 もと162に収納
25	大島藍川書簡	大島藍川	小畑敏四郎	昭和20年8月22日	数量 1通 内容 「日本国民に訴ふ」。最後の一人になるまで抗戦すべき。 記述法 墨書 備考 封筒に「激越之文」と書込み 合綴注記 もと162に収納

小畑敏四郎関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
26	太田喜二郎書簡	太田喜二郎	小畑敏四郎	昭和20年8月20日	数量 1通 内容 小生の名も記憶にないと思うが、国務大臣となったことを知り、激励。 記述法 墨書 備考 太田は京都府立一中時代の友人。画家。 合綴注記 もと162に収納
27	大谷尊由書簡	〔大谷尊由〕	小畑敏四郎	昭和11年8月14日	数量 1通 内容 暑中見舞い 記述法 ペン 備考 葉書 合綴注記 もと134に収納
28	岡田健蔵書簡	岡田健蔵	小畑敏四郎	昭和20年8月20日	数量 1通 内容 国務大臣就任激励。疎開先より認む。 記述法 ペン 備考 葉書 合綴注記 もと162に収納
29	緒方権蔵書簡	緒方権蔵	小畑敏四郎	昭和20年8月20日	数量 1通 内容 国務大臣就任激励 記述法 ペン 備考 緒方は陸軍省囑託 合綴注記 もと162に収納
30	落合慶四郎書簡	落合慶四郎	小畑敏四郎	〔昭和20年〕8月21日	数量 1通 内容 国務大臣就任激励。福井市長退職予定、後任決定せず市会にて協議中。 記述法 墨書 備考 葉書 合綴注記 もと162に収納
31	小野八千雄書簡	小野八千雄	小畑敏四郎	昭和20年8月25日	数量 1通 内容 国務大臣就任激励 記述法 墨書 備考 小野は宮内官僚 合綴注記 もと162に収納
32	小畑英五郎書簡	小畑英五郎	小畑敏四郎	昭和20年8月22日	数量 1通 内容 国務大臣就任祝い 記述法 ペン 合綴注記 もと162に収納
33	小畑淳夫書簡	小畑淳夫(満洲第698部隊後藤隊)	小畑敏四郎		数量 1通 内容 軍務精励 記述法 ペン 備考 葉書。軍事郵便。淳夫は小畑甥。 合綴注記 もと161に収納

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
34	小畑一雄・又雄・みね子書簡	小畑一雄・又雄・みね子	小畑敏四郎	2月13日～2月26日	<p>数量 1通(7枚)</p> <p>内容 子供たちの書簡をまとめて小畑に送ったもの。一雄3便(2ヵ月ぶりに風呂に入る、代数・英語の勉強、学校を休んだこと)。又雄2便(土曜日は参れず失礼、柿や梨を食べている、太陽燈のカタログ)。みね子1便(学校を休んだこと)。各書簡の端書に妻による補足あり。</p> <p>記述法 ペン、墨書</p> <p>備考 封筒の日付は2月13日、差出人名は一雄・又雄</p> <p>合綴注記 もと160に収納</p>
35	小畑又雄書簡	小畑又雄	小畑敏四郎	昭和13年2月1日～22日	<p>数量 1通(4枚)</p> <p>内容 3便(お出御礼、算術の試験、学校に行けたこと)。妻による補足あり。</p> <p>記述法 ペン</p> <p>備考 封筒の日付は2月7日。</p> <p>合綴注記 もと160に収納</p>
36	臣島一雄書簡	臣島一雄	小畑敏四郎	昭和21年1月	<p>数量 1通</p> <p>内容 新生日本の第一春大詔を拝し、貴下の努力を祈る。</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 葉書</p>
37	片倉弥太郎	片倉弥太郎(産業之世界社「興亜の群星出版部」)	小畑敏四郎	昭和16年4月1日	<p>数量 1通</p> <p>内容 小畑の伝記的記事(「隠れたる日本の偉材小畑敏四郎氏」)が掲載された『興亜の群星』上梓報告</p> <p>付属資料 (1)該当頁切抜き、1枚/(2)宣伝チラシ、1枚</p> <p>記述法 印刷</p> <p>合綴注記 もと134に収納</p>
38	加藤堅一書簡	加藤堅一(東安省東安田中(和)部隊森田隊)	小畑敏四郎		<p>数量 1通</p> <p>付属資料 写真(加藤の中尉軍装)、2枚</p> <p>記述法 ペン</p> <p>備考 写真2枚、文章なし</p> <p>合綴注記 もと161に収納</p>
39	樺島一書簡	樺島一	小畑敏四郎	〔昭和20年〕8月22日	<p>数量 1通</p> <p>内容 国務大臣就任激励。かつて小畑のロシア駐在武官時代に二週間談合したことがある。</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 葉書</p> <p>合綴注記 もと162に収納</p>
40	河原直文書簡	河原直文	小畑敏四郎	〔昭和20年8月〕	<p>数量 1通</p> <p>内容 「慶祝尚為邦家一層之御自愛」と書かれた名刺</p> <p>記述法 ペン</p> <p>合綴注記 もと162に収納</p>

小畑敏四郎関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
41	河本恭輔書簡	河本恭輔	小畑敏四郎	〔昭和20年〕8月	数量 1通 内容 国務大臣就任激励。二三年遅れたのは如何にも残念。 記述法 ペン 合綴注記 もと162に収納
42	神崎廣書簡	神崎廣	小畑敏四郎	〔昭和20年〕8月31日	数量 1通 内容 国務大臣就任激励。去15日は痛恨の涙と新たなる覚悟。物資転換其他変動期に大儲けせんとする者たちに慨嘆。大いなる脱皮作用は軍官民になし。 記述法 墨書 備考 本文の日付は8月31日だが、封筒は9月25日。 合綴注記 もと162に収納
43	神崎廣書簡	神崎廣	小畑敏四郎	〔昭和21年〕1月1日	数量 1通 内容 年賀。拝眉相叶わず残念。近衛公御急逝実に痛恨。来月上旬ごろより沼津大中寺に参籠。 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
44	許崇智書簡	許崇智	小畑敏四郎		数量 1通 内容 磯谷廉助の帰国 付属資料 (1)名刺、1枚/(2)写真、1枚。各台紙つき。 記述法 墨書 合綴注記 もと160に収納
45	黒木実幸書簡	黒木実幸	小畑敏四郎	昭和10年	数量 1通 付属資料 (1)写真、3枚/(2)台紙、1枚 記述法 墨書 備考 書簡はなく、黒木親慶(昭和9年陸軍少佐で死去)墓の写真が3枚。 合綴注記 もと134に収納
46	小出孝三書簡	小出孝三	小畑敏四郎	〔昭和21年〕6月15日	数量 1通 内容 御芳書拝誦。当地本年は田植に困る気候。二高全焼により幼年学校校舎で授業、社会主義に興味を持つもの多数、正法を守る講義を行う。教育者追放令に該当、学校に迷惑を掛けて済まぬ。退官後は上京浪人の予定。 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
47	後藤基次書簡	後藤基次	小畑敏四郎	〔昭和20年〕9月28日	数量 1通 内容 国務大臣就任祝 記述法 ペン 備考 葉書 合綴注記 もと162に収納

小畑敏四郎関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
48	近藤栄書簡	近藤栄	小畑敏四郎	昭和20年8月25日	数量 1通 内容 国務大臣就任祝。北澤の御邸を訪問したが移転していた。 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
49	酒井鎬次書簡	酒井鎬次	小畑敏四郎	昭和20年8月25日	数量 1通 内容 国務大臣就任祝い 記述法 墨書 備考 葉書。酒井は陸軍中将。 合綴注記 もと162に収納
50	笹川清之助書簡	笹川清之助	小畑敏四郎	〔昭和20年〕8月21日	数量 1通 内容 将軍の善謀勇敢は夙に知られていたのに予備役に編入された。抜擢されて重任に任せられ適材適所。 記述法 墨書 備考 葉書。赤鉛筆で傍線が引いてある。 合綴注記 もと162に収納
51	笹川清之助書簡	笹川清之助	小畑敏四郎	昭和20年10月6日、10日	数量 1通(2枚) 内容 揮毫希望 記述法 墨書 備考 封筒は10月10日 合綴注記 もと162に収納
52	笹川清之助書簡	笹川清之助(日本弘道会会員)	小畑敏四郎	昭和20年10月22日	数量 1通 内容 揮毫希望 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
53	佐々木富四郎書簡	佐々木富四郎	小畑敏四郎	〔昭和20年〕8月21日	数量 1通(6枚) 内容 15日の玉音驚愕。台北での比島事業進出計画は時機を失し退社。帰国後、軍需関係会社に就職。国務大臣就任激励。阿南将軍自決は耐え難いが善くやってくれたと涙を流した。 記述法 墨書 備考 佐々木と阿南は広島幼年学校の同期 合綴注記 もと162に収納
54	沢井英五書簡	沢井英五	小畑敏四郎	〔昭和20年〕8月20日	数量 1通 内容 国務大臣拝命、御貢献旺らんことを祈念。 記述法 墨書
55	志甫書簡	志甫(大佐)		〔昭和20年〕	数量 1通 内容 小官等の努力たらず面目次第もない、近く東北憲兵司令部附として赴任。 記述法 墨書 備考 葉書 合綴注記 もと162に収納

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
56	進藤隆二郎書簡	進藤隆二郎	小畑敏四郎	〔昭和21年〕7月5日	数量 1通 内容 帝都は米の欠配続で同情、弊地は欠配に いたらず。戦犯裁判で転変の世の中を惑念す る。目下一農夫として増産に努める。 記述法 墨書 備考 封筒なし 合綴注記 もと162に収納
57	菅勇書簡	菅勇	小畑敏四郎	〔昭和20年〕8月22日	数量 1通 内容 国務大臣就任祝い 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
58	菅原裕書簡	菅原裕	小畑敏四郎	〔昭和20年〕8月25日	数量 1通(5枚) 内容 帝国代表の国体信念、賠償方法、戦争犯 罪人処分問題につき意見。 記述法 墨書、ペン
59	菅原裕書簡	菅原裕	小畑敏四郎	〔昭和20年〕10月9日	数量 1通 内容 突然の総辞職遺憾千万、新内閣も勿論御 方針を継承すると信じる。 記述法 墨書 備考 菅原は東京裁判の弁護士 合綴注記 もと162に収納
60	鈴木花子書簡	鈴木花子	小畑敏四郎	〔昭和20年〕8月13日	数量 1通 内容 息子甫道の結婚祝い御礼。甫道は津上空 で敵機と遭遇、戦死、武人として本望。甫道に かわり御指導御礼。 記述法 ペン 備考 花子は故鈴木率道中将の妻。息子甫道は 陸軍大尉。 合綴注記 もと134に収納
61	住友吉左衛門書簡	住友吉左衛門	小畑敏四郎	昭和20年8月29日	数量 1通 内容 国務大臣就任激励 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
62	副島台子書簡	副島台子	小畑敏四郎	10月2日	数量 1通 内容 茂甥死去、茂も病中 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
63	園田新吾書簡	園田新吾	小畑敏四郎	〔昭和20年〕8月21日	数量 1通 内容 国務大臣就任祝、この難局に御出馬感謝 の至り。 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
64	高杉政庸書簡	高杉政庸	小畑敏四郎	昭和20年8月31日	数量 1通(2枚) 内容 国務大臣就任祝い。先般来御申間の拙屋 の件は御心配なく、御照会は森島君迄。 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
65	高園正一書簡	〔高園正一〕	小畑敏四郎	〔昭和20年8月〕	数量 1通 内容 健康祈念 記述法 墨書 備考 差出人は「タカソノ」とあり 合綴注記 もと162に収納
66	高園正一書簡	高園正一	小畑敏四郎	21日	数量 1通 内容 高園繁少佐が在世せば閣下の今日を如何に喜ぶか。 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
67	高橋鉄太郎書簡	高橋鉄太郎	小畑敏四郎	昭和17年5月13日	数量 1通 内容 世間軽薄 記述法 墨書 備考 漢文 合綴注記 もと134に収納
68	高橋鉄太郎書簡	高橋鉄太郎	小畑敏四郎	3月15日	数量 1通 内容 戦勝民飢市寂寥 記述法 墨書 備考 漢文 合綴注記 もと134に収納
69	高橋鉄太郎書簡	〔高橋鉄太郎〕	小畑敏四郎		数量 1枚 内容 怪風狂吼使人憂 記述法 墨書 備考 漢文。封筒なし。 合綴注記 もと134に収納
70	宅間辰次書簡	宅間辰次	小畑敏四郎	昭和20年9月21日	数量 1通 内容 国務大臣就任祝。東上の機会あれば御面接願、小生一生の記念。 記述法 墨書 備考 宅間は京都一中の同窓生 合綴注記 もと162に収納
71	田中清太郎書簡	田中清太郎	小畑敏四郎	〔昭和20年〕8月27日	数量 1通 内容 国務大臣就任祝。昌子静岡病院入院に伴い本拠を移す。帰還兵が食糧等の分配を受けに汽車を乗るは、地方の痛苦甚しき折柄遺憾。 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
72	田中稔書簡	田中稔	小畑敏四郎	昭和15年5月2日	数量 1通 内容 亡父久三郎の墓参御礼。山本祖母様の命日調査の結果報告。小畑兄妹の幼少時写真を発見。 付属資料 戸籍、1通 記述法 墨書 合綴注記 もと134に収納

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
73	津田美武書簡	津田美武(北支那派遣力第三五九一部隊)	小畑敏四郎	3月31日	数量 1通 内容 書簡御礼。快勝続き、此後の推移次第ではヒンデンブルグのように閣下御出馬の機もあろう。帰京の楽しみは閣下に拝顔する事。 付属資料 写真(「2月22日夕刻常瑞 青柳支隊到着時」)、1枚 記述法 墨書 備考 軍事郵便 合綴注記 もと134に収納
74	出口芳雄書簡	出口芳雄(札幌鉄道司令部)	小畑敏四郎	〔昭和20年〕8月24日	数量 1通 内容 国務大臣就任激励。本時間を招来せる原因の一は対蘇方針の不徹底にあり。 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
75	出口芳雄書簡	出口芳雄	小畑敏四郎	〔昭和21年〕4月20日	数量 1通 内容 居住問題につき多大の御配慮、帰京の上後途を策する。北海道の現状、共産党員を自称する輩の跳梁。田中老兄戦災に引き続き令嬢御逝去。 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
76	寺崎太郎書簡	寺崎太郎	小畑敏四郎	〔昭和20年〕11月18日	数量 1通 内容 自宅招待礼状。熱海山王ホテルの状況。辞意につき外相に面会したがのれんに腕押し式。帰途、小畑の言葉に励まされる。 記述法 墨書 備考 寺崎は外務官僚
77	土肥米之書簡	土肥米之(愛知県知事)	小畑敏四郎	昭和20年8月31日	数量 1通 内容 国務大臣就任激励 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
78	土居福生書簡	土居福生	小畑敏四郎	8月22日	数量 1通 内容 救国の為御尽瘁されたく、過日御高話拝聴深謝。 記述法 墨書 備考 葉書 合綴注記 もと134に収納
79	内閣書記官書簡	内閣書記官	小畑敏四郎	昭和12年8月15日	数量 1通 内容 参内命令 記述法 墨書 備考 封筒に「第14師団師団長親輔式」と鉛筆書きあり 合綴注記 もと134に収納

小畑敏四郎関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
80	難波光造書簡	難波光造	小畑敏四郎	昭和20年8月22日	数量 1通(2枚) 内容 国務大臣就任祝。郷土広島甚大なる戦禍、奉公の途あれば配慮賜りたく。 記述法 墨書 備考 難波は陸軍少将 合綴注記 もと162に収納
81	野中直一書簡	野中直一(三洋商会)	小畑敏四郎	〔昭和20年〕8月	数量 1通 内容 国務大臣就任祝 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
82	野村晋哉書簡	野村晋哉	小畑敏四郎	昭和20年8月27日	数量 1通 内容 国務大臣就任祝い。当方一同無事、学校にて次代国民の教育を天職にする。広島勤務三吉大佐無事。 記述法 墨書 備考 葉書 合綴注記 もと162に収納
83	花田重雄書簡	花田重雄	小畑敏四郎	5月30日	数量 1通 内容 北海道バター1箱送付、砂糖は部隊配給をそのまま送付。額・田中将に祝詞。芳村中将より特によろしくとの伝言あり。今空襲警報あり。 付属資料 花田重雄宛江川孝七書簡、1通 記述法 鉛筆 合綴注記 もと134に収納
84	浜地常勝書簡	浜地常勝	小畑敏四郎	〔昭和21年〕11月14日	数量 1通 内容 終戦後の生計、小畑体調の心配 記述法 ペン 合綴注記 もと161に収納
85	浜地敏子書簡	浜地敏子	小畑敏四郎	昭和21年10月5日	数量 1通 内容 外地にいた自分や家族が小畑から受けた温情への感謝。帰国後の生活。 記述法 ペン 備考 浜地は小畑のめい 合綴注記 もと161に収納
86	浜地敏子書簡【ほか一括】				
86-1	浜地敏子書簡	浜地敏子	小畑敏四郎	〔昭和21年〕10月28日	数量 1通 内容 小畑体調の心配。終戦後の家族の状況。 記述法 ペン 合綴注記 もと161に収納

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
86-2	〔写真「陸軍生徒浜地勝太郎」〕	〔浜地敏子〕	〔小畑敏四郎〕	昭和19年4月16日	数量 1枚 内容 勝太郎は小畑のめい浜地敏子の子カ。陸軍士官学校の制服。 記述法 ペン 備考 浜地書簡に重ねて保管されていた。浜地書簡のいずれかに同封されていたものカ。 合綴注記 もと161に収納
87	久永輝治書簡	久永輝治	小畑敏四郎	昭和20年8月19日	数量 1通(2枚) 内容 国務大臣就任祝。淋しく戦局を見送って、永年隠居されたる事も拝察したが、御就任当然。 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
88	平野井雷治書簡	平野井雷治	小畑敏四郎	〔昭和20年〕8月28日	数量 1枚 内容 国務大臣就任祝。昨年は娘の結婚式に来駕光栄。 記述法 墨書 備考 葉書 合綴注記 もと162に収納
89	平山一磨書簡	平山一磨	小畑敏四郎	昭和21年4月23日	数量 1通(2枚) 内容 御挨拶申上げず出征。留守宅に細大の御眷顧感謝。ダバオで作戦路の開設に従事、収容所生活を送り、3月に浦賀上陸。 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
90	平山一磨書簡	平山一磨	小畑敏四郎	昭和21年6月12日	数量 1通(3枚) 内容 御修禱誠に痛心、病気見舞い。六十の手習で耕作。 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
91	平山章書簡	平山章	小畑敏四郎	6月19日	数量 1通 内容 東部軍司令部に転属、参謀の手足となつてご奉仕。 記述法 ペン 備考 葉書 合綴注記 もと161に収納
92	福島菊次書簡	福島菊次	小畑敏四郎	〔昭和20年〕8月20日	数量 1通 内容 国務大臣就任祝 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
93	福田龍一書簡	福田龍一(満洲5864部隊佐竹隊)	小畑敏四郎	11月27日	数量 1通 内容 葉書御礼。当地は寒気増し、望千里只褐色。 記述法 ペン 備考 軍事郵便、検閲済み。龍一は小畑甥。 合綴注記 もと161に収納

小畑敏四郎関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
94	藤井帛雄書簡	藤井帛雄	小畑敏四郎	昭和20年8月28日	数量 1通 内容 国務大臣就任祝 記述法 墨書 備考 後欠。藤井は陸軍大尉。 合綴注記 もと162に収納
95	藤井帛雄書簡	藤井帛雄	小畑敏四郎	〔昭和20〕10月6日	数量 1通 内容 国務大臣就任激励。政治犯の釈放、言論の自由等天皇政治へ迫る米国の真意。これからは国民一人一人が真剣にならねばならぬ。 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
96	本庄繁書簡	本庄繁	小畑敏四郎	〔昭和6年〕12月23日	数量 1通 内容 盟友荒木の陸相就任は何よりの仕合せ。新聞によれば総長は宮殿下を推戴、皇室に寸分も迷惑を掛け申さず様。真崎次長説唯一の適任者。 記述法 墨書 用紙 陸軍用箋 備考 後欠。奉天より、軍事郵便。 合綴注記 もと98の付属資料に収納
97	本庄繁書簡	本庄繁	小畑敏四郎	〔昭和20年〕8月20日	数量 1通 内容 国務大臣就任祝い。天皇の統治権等を失わせ申し訳ない、救国の大策に御健斗を祈る。 記述法 墨書 備考 封筒に「自決寸前」と朱書
98	本庄繁書簡	本庄繁	小畑敏四郎	4月29日	数量 1通 内容 林君より申越の事情、何れの方面にも支障なし。荒木も大いに懸念、荒木へ転送願。 付属資料 資料収納封筒(小畑又雄氏作成力)、1枚 記述法 墨書 備考 姫路より(第10師団長時代カ) 合綴注記 付属資料はもと96、156を収納
99	前川憲夫書簡	前川憲夫	小畑敏四郎	〔昭和21年〕6月15日	数量 1通(5枚) 内容 祖国再建の各意味を記念する御染筆依頼。空襲で自宅家財全焼負傷。 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
100	前川和夫書簡	前川和夫	〔小畑敏四郎〕		数量 2枚 記述法 墨書 備考 「共産党への認識」というタイトルが付されている。封筒なし。 合綴注記 もと160に収納
101	前田青美書簡	前田青美	小畑敏四郎	1月30日	数量 1通 内容 年賀状 記述法 墨書 合綴注記 もと134に収納

小畑敏四郎関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
102	まさ書簡	まさ	小畑敏四郎	2月17日	数量 1通 内容 小畑体調の心配 記述法 ペン 備考 封筒なし 合綴注記 もと161に収納
103	政狩三徳書簡	政狩三徳	小畑敏四郎	〔昭和20年〕8月20日	数量 1通 内容 国務大臣就任祝。溜飲の下がる思い。 記述法 墨書 備考 政狩は陸軍少佐、小畑の第10連隊時代の部下 合綴注記 もと162に収納
104	政狩三徳書簡	政狩三徳	小畑敏四郎	〔昭和20年〕10月10日	数量 1通 内容 内閣総辞職に伴う御退官如何にも残念。最後の残務(軍需品、食糧等の引渡)落着の後拝趨願したい。 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
105	政狩三徳書簡	政狩三徳	小畑敏四郎	〔昭和21年〕9月5日	数量 1通 内容 病気見舞い。揮毫「貫以一誠」を日夜仰いでいる。新憲法とやらも近く発布、終戦以来虚脱の境地。 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
106	三上卓書簡	三上卓	小畑敏四郎	〔昭和21年〕6月	数量 1通(5枚) 内容 病気見舞い 記述法 墨書 用紙 蒙古自治政府用箋
107	三上卓書簡	三上卓	小畑敏四郎	7日	数量 1通(4枚) 内容 四元と相談した宮様内閣大改造案、小畑は内相として掲載。 記述法 墨書 用紙 蒙古自治政府用箋
108	水野保書簡	水野保	小畑敏四郎	昭和20年8月21日	数量 1通 内容 国務大臣就任激励 記述法 ペン 合綴注記 もと162に収納
109	三井高公書簡	三井高公	小畑敏四郎	昭和20年8月21日	数量 1通 内容 国務大臣就任祝 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
110	光田敏夫書簡	光田敏夫	小畑敏四郎	〔昭和20年〕9月30日	数量 1通 内容 国務大臣就任祝いが住所間違いで戻ってきた。 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納

小畑敏四郎関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
111	三宅則義書簡	三宅則義(計理士・税務代理士)	小畑敏四郎	昭和20年8月22日	数量 1通 内容 国務大臣就任祝 付属資料 名刺、1枚 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
112	三好重夫書簡	三好重夫(京都府知事)	小畑敏四郎	昭和20年8月21日	数量 1通 内容 国務大臣就任祝 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
113	三吉義隆書簡	〔三吉義隆〕(中佐)	小畑敏四郎	昭和17年5月14日	数量 1通 記述法 ペン 備考 封筒のみ。差出人は「三吉中佐」とあり。三吉の最終階級は大佐。 合綴注記 もと162に収納
114	三吉義隆書簡	三吉義隆	小畑敏四郎	昭和20年11月7日	数量 1通 内容 復員と水害に関する見舞状に対して御礼申し上げず御無礼。兵団無事復員完了したが、連隊区司令部又は残業輔導部勤務を命じられる予定。帝国の前途を想うと申し訳ない。 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
115	村上啓作書簡	〔村上啓作〕	小畑敏四郎	6月26日	数量 1通 内容 近頃東満方面を受け持つ。後醍醐天皇を題材にした軍隊教育を行う。 記述法 墨書 備考 絵葉書。差出人は「啓作」とあり。
116	村上康之書簡	村上康之	小畑敏四郎	7月23日	数量 1通 内容 自分と弟は内地におり無事、在満の父母妹の消息不明。 記述法 ペン 備考 GHQの検閲印 合綴注記 もと161に収納
117	持永浅治書簡	持永浅治	小畑敏四郎	昭和20年8月20日	数量 1通 内容 出馬祝。老骨にて何のなす処なく今日に至るが、軍事援護に関し何か適職あれば引き出してほしい。 記述法 鉛筆 備考 持永は陸軍少将 合綴注記 もと162に収納
118	森さだこ・安倍禎子書簡	森さだこ・安倍禎子	小畑敏四郎	〔昭和20年〕8月20日	数量 1通(2枚) 内容 国務大臣就任祝、主人もどんなに喜んでおりましたと早速仏前に報告。 記述法 墨書 備考 森と安倍は母子で、各1枚づつしたためている 合綴注記 もと162に収納

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
119	森卓書簡	森卓	小畑敏四郎		数量 1通 内容 元気に御奉公。サイバンの悲報等同胞の玉碎に痛憤やる方なく。 記述法 ペン 備考 絵葉書、軍事郵便、検閲済み 合綴注記 もと161に収納
120	森本作兵衛書簡	森本作兵衛(富山県氷見郡大田村村長)	小畑敏四郎	昭和20年9月15日	数量 1通 内容 国務大臣就任激励。御疎開の準備をして待っていたが、期を得ず余儀なき次第。余暇の折、一度御来駕の程。 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
121	矢崎勘十書簡	矢崎勘十	小畑敏四郎	〔昭和20年〕8月15日	数量 1通(4枚) 内容 休戦となり、日蘇支三国の友好関係の迅速な成立が必要。小生の対支の気分は重慶側も諒解。 記述法 墨書、ペン
122	柳井貴三書簡	柳井貴三	小畑敏四郎	〔昭和20年〕8月20日	数量 1通 内容 国務大臣就任激励。八十一歳となった。 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
123	柳瀬博親書簡	柳瀬博親	小畑敏四郎	昭和21年1月15日	数量 1通 内容 年賀状 記述法 墨書 備考 葉書 合綴注記 もと161に収納
124	藪清孝書簡	藪清孝	小畑敏四郎	昭和20年9月28日	数量 1通(2枚) 内容 総理宮殿下の国民の声を聴くという希望にこたえて。近來の警察官は国民怨嗟的、悪化インフレ防止に対する大蔵大臣等に寒心、日本政府の役人式やり方にはマッカーサー司令部が焦慮。 記述法 ペン 備考 藪は陸軍事務嘱託 合綴注記 もと162に収納
125	山岡重厚書簡	山岡重厚	小畑敏四郎	〔昭和20年〕9月1日	数量 1通 内容 当師団司令部改構せられ田舎に引きこもり聾座敷の主人に。近時荒木大将の悪口する人は側近。 記述法 墨書 備考 山岡の最終階級は陸軍中将。 合綴注記 もと162に収納

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
126	山岡重厚書簡	山岡重厚	小畑敏四郎	〔昭和20年〕9月14日	数量 1通(3枚) 内容 四国辺の人民は未だ天皇様の事を少しは考えているが、知識階級は米国式と化す。司令部本月下旬解散。参謀は降伏と同時に俘虜と友達となる。各地にダンスボール急増し皇土にあらざる姿。県庁役人共為すへき方策全くなし。東条、鈴木ら悪人消滅、梅津ら平然としており不可解。真崎閣下の消息、森赴の事、事情判明次第内示依頼。 記述法 墨書
127	山岡重厚書簡	山岡重厚	小畑敏四郎	2月1日	数量 1通(2枚) 内容 当地方には社会党・共産党の者共多く、スパイ行為が良民を苦しめる原因。引越。M將軍安泰はこの上なき事、A將軍の御苦勞御察申上。原田少将の行方。近原公手記拝見。 記述法 墨書 備考 便箋2枚目に付箋貼付
128	山本冬彦書簡	山本冬彦	小畑敏四郎	昭和19年8月14日	数量 1通 内容 閣下を要する秋必ず到来 記述法 ペン 備考 葉書、爪哇ジャカルタより 合綴注記 もと134に収納
129	芳村正義書簡	芳村正義(宇品陸軍運輸部)	小畑敏四郎	昭和17年5月5日	数量 1通 内容 魚雷を受けた船における生存者の搜索状況 記述法 ペン 備考 速達、検閲済印あり、切手はがれあり 合綴注記 もと134に収納
130	芳村正義書簡【ほか一括】				
130-1	芳村正義書簡	芳村正義	小畑敏四郎	〔昭和20年〕11月21日	数量 1枚 内容 拝晤の節には憂国の御高説御教示感銘。来月退官後は読書農耕の従事、再起報国の日を期したい。 記述法 墨書 合綴注記 もと130-2に同封
130-2	芳村正義書簡	芳村正義	小畑敏四郎	〔昭和20年〕12月29日	数量 1通 内容 11月20日付現役退官後、復員官として鹿児島上陸地支局長となる、額田坦君の推挙によるものか。南方戦線に多数の部下を残してきた小生としては知恩報謝のため、微力を尽くしたい。 記述法 ペン 合綴注記 もと130-1を同封

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
131	米井熊男書簡	米井熊男	小畑敏四郎	〔昭和20年〕9月17日	数量 1通(5枚) 内容 国務大臣就任激励。大阪連隊区司令部召集准尉として御聖断を拝す。最近部隊解除に当り新日本建設の礎たるべしとの決意。 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
132	鷺尾勘解次書簡	鷺尾勘解次	小畑敏四郎	〔昭和20年〕10月21日	数量 1通 内容 国務大臣就任御苦勞。この時局を招いたのは軍部を抑えられなかったため。自由主義について。復員者はぶらぶらし民業は休止の状態。 記述法 墨書 備考 鷺尾は住友伸銅管株式会社取締役 合綴注記 もと162に収納
133	差出人不明書簡	差出人不明	小畑敏四郎		数量 1通 内容 東大横田教授、河合教授を弾劾し、東大の学風を批判したもの 付属資料 収納封筒、1枚 記述法 墨書 備考 前後欠。作成者職業は府立高等学校の元教職員。 合綴注記 もと134に収納
134	〔封筒「戦前来翰戦時中来翰」〕	〔小畑又雄〕			数量 1枚 記述法 鉛筆 備考 次男又雄氏整理によるものカ 合綴注記 もと1、27、37、45、60、67、68、69、72、73、78、79、83、101、128、129、133、142、143、144、158、303を収納

1.2 小畑敏四郎発書簡（資料番号135～154）

135	小畑敏四郎書簡	小畑敏四郎	小畑一雄	〔昭和12年〕12日	数量 1通 内容 父が一雄に期待するものは群に傑出したる秀才。今後は代数等の書籍を携え、毎週宇都宮に来るべし。 記述法 墨書 合綴注記 もと160に収納
136	小畑敏四郎書簡	小畑敏四郎	小畑一雄	11月8日	数量 1通 内容 水郷見物 記述法 墨書 備考 絵葉書 合綴注記 もと160に収納

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
137	小畑敏四郎書簡	小畑敏四郎	小畑一雄		数量 1通 内容 ほんとうの力が何よりたいせつ、此の力はべんけうからできる、べんけうするくせがお前の力になる。 記述法 墨書 備考 写。敏四郎の書簡を一雄が書き写したものの力。 合綴注記 もと160に収納
138	小畑敏四郎書簡	〔小畑敏四郎〕	小畑一雄・又雄	昭和15年4月18日	数量 1通 内容 花満開、檀原神宮参拝 記述法 ペン 備考 絵葉書 合綴注記 もと160に収納
139	小畑敏四郎書簡	小畑敏四郎	小畑又雄	〔昭和12年〕	数量 1通(2枚) 内容 徳川家康の揮毫「堪忍」のプリントと家康の名言を筆写したもの。「父が又雄の初等科三年の時、宇都宮から送って下さった。」と書込みあり。 記述法 墨書 備考 小畑千鶴宛十河耘作書簡の封筒(書簡なし)に封入 合綴注記 もと160に収納
140	小畑敏四郎書簡	〔小畑敏四郎〕	小畑又雄	昭和14年11月5日	数量 1通 内容 雨の紅葉を観て 記述法 墨書 備考 黒部峡谷の絵葉書 合綴注記 もと160に収納
141	小畑敏四郎書簡	〔小畑敏四郎〕	小畑又雄	6月15日	数量 1通 内容 函館滞在、帰京予定 記述法 鉛筆 備考 絵葉書、未投函 合綴注記 もと160に収納
142	小畑敏四郎書簡	小畑敏四郎	酒井純次	昭和11年8月10日	数量 1通 内容 少々御頼致度、11日午前10時迄に御入来依頼 記述法 電子式複写 合綴注記 もと134に収納。さらに142～144、158、303はもとビニル袋一括。
143	小畑敏四郎書簡	小畑敏四郎	酒井純次	1月17日	数量 1通 内容 酒井の健康状態の心配 記述法 電子式複写 合綴注記 もと134に収納。さらに142～144、158、303はもとビニル袋一括。
144	小畑敏四郎書簡	小畑敏四郎	酒井純次	7月28日	数量 1通 内容 貴葉に接し安堵、全快と確信。 記述法 電子式複写 合綴注記 もと134に収納。さらに142～144、158、303はもとビニル袋一括。

小畑敏四郎関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
145	小畑敏四郎書簡	小畑敏四郎	森政三	昭和11年12月29日	数量 1通 内容 好物送付礼状 記述法 墨書 備考 葉書 合綴注記 もと314に収納
146	小畑敏四郎書簡	小畑敏四郎	森政三	〔昭和12年〕11月11日	数量 1通 内容 一時北支那の噂があったが、寺内との関係で心配する向きがあり沙汰やみに。小生としては本格的な相手と戦うのであればよいが、寺内と朝から晩まで対面する仕事は望まない。 記述法 墨書 合綴注記 もと314に収納
147	小畑敏四郎書簡	小畑敏四郎	森政三	昭和14年4月6日	数量 1通 内容 滋賀県出張で留守にしており誠に残念。御令息御入学如何。吟味の品送付御礼。 記述法 墨書 備考 葉書 合綴注記 もと314に収納
148	小畑敏四郎書簡	小畑敏四郎	森政三	昭和14年7月12日	数量 1通 内容 無事伺 記述法 墨書 備考 葉書 合綴注記 もと314に収納
149	小畑敏四郎書簡	小畑敏四郎	森政三	昭和15年8月10日	数量 1通 内容 森近況についての感想。小生も無事消光。 記述法 墨書 備考 葉書 合綴注記 もと314に収納
150	小畑敏四郎書簡	小畑敏四郎	森政三	12月29日	数量 1通 内容 貴地名産送付御礼 記述法 墨書 備考 葉書 合綴注記 もと314に収納
151	小畑敏四郎書簡	小畑敏四郎	森政三	11日	数量 1通 内容 芳台拝見 記述法 墨書 備考 葉書 合綴注記 もと314に収納
152	小畑敏四郎書簡	小畑敏四郎	森政三	〔昭和21年〕8月12日	数量 1通 内容 退職の際、御挨拶を戴き感謝。貴兄は元来愚鈍の小生に対し恐らく最大後援者の一人。 記述法 墨書 合綴注記 もと314に収納

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
153	小畑敏四郎書簡	〔小畑敏四郎〕	不明	11月6日	数量 2通 内容 紅葉の様子、長崎出発前久子様を訪問。 記述法 墨書 備考 雲仙岳の絵葉書、宮崎旅館にてしたたむ、未投函 合綴注記 もと160に収納
154	小畑敏四郎書簡	〔小畑敏四郎〕	不明	〔昭和10年〕	数量 1通 内容 国分寺で外回り掃除 付属資料 (1)〔昭和十年特別大演習記念絵葉書セット〕、2枚/(2)封筒、1枚 記述法 墨書 備考 薩摩屋旅館の絵葉書、未投函。「昭和十年特別大演習記念」(統監部)の絵葉書セット(2枚組)のなかに封入されていた。 合綴注記 もと160に収納

1.3 第三者間書簡
(資料番号155～162)

155	岡村寧次書簡	岡村寧次	荒木貞夫	〔昭和17年〕8月12日	数量 1通 内容 内地帰還の誘いに対する返信。支那事変が解決せず、また一般将兵も長く留まっているので、帰還に賛成できない。 付属資料 資料収納封筒(小畑又雄氏作成カ)、1枚 記述法 ペン 備考 北支より
156	近衛文麿書簡	近衛文麿	荒木貞夫	〔昭和9年〕7月5日	数量 1通 内容 岡田啓介に大命降下、内地の事情、皆目分からず判断に苦しむ。米国に対しては日本の立場を率直に表明したい。洋論界では極東政策稍再考。小畑・志賀・佐伯諸賢へよろしく。 記述法 ペン 備考 ニューヨークより 合綴注記 もと98の付属資料に収納
157	十河耘作書簡	十河耘作	母上	7月18日	数量 1通 内容 村上幸雄について人物照会 記述法 ペン 備考 封筒なし、赤鉛筆書込みあり 合綴注記 もと160に収納
158	船田中書簡	船田中	酒井純次	昭和33年8月9日	数量 1通 内容 討論会の折御高配御礼、本日帰京 付属資料 ビニル袋、1枚 記述法 電子式複写 合綴注記 もと134に収納。さらに142～144、158、303はもとビニル袋一括。

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
159	藤沼武男書簡	藤沼武男	荒木貞夫		<p>数量 1通</p> <p>内容 林銑十郎と林内閣に対する批評で「以和欺人」、「偽善の典型」、「荒木大将ニ対スル悪声ノ出処は必ズ林大将ノ支持者」。秦、真崎、永田、渡辺と林の関係等。</p> <p>付属資料 (1)「藤沼武男」(『日本人事名鑑』コピー)、1枚/(2)資料収納封筒(小畑又雄氏作成)、1枚</p> <p>記述法 墨書</p> <p>備考 書込み多数</p>
160	〔封筒「家族宛」、「加治商会」〕				<p>数量 2枚</p> <p>付属資料 紙片、1枚</p> <p>記述法 鉛筆、ペン</p> <p>備考 次男又雄氏整理によるものカ</p> <p>合綴注記 「家族宛」封筒はもと34、35、44、100、135、136、137、138、139、140、141、153、154、157、309を収納。「家族宛」封筒のなかに、さらに「加治商会」封筒が入っており、ここにはもと35、135、136、137、138、139、140、141、153、154が収納。</p>
161	〔封筒「親戚書かん近隣知人」〕				<p>数量 1枚</p> <p>付属資料 封書断片、1枚</p> <p>記述法 鉛筆</p> <p>備考 次男又雄氏整理によるものカ</p> <p>合綴注記 もと3、33、38、84、85、86-1~42、91、93、102、116、119、123を収納</p>
162	〔封筒「父への来翰」〕	〔小畑又雄〕			<p>数量 1枚</p> <p>付属資料 切手、1枚</p> <p>記述法 ペン</p> <p>備考 次男又雄氏整理によるものカ。付属資料は収納書簡より剥がれたものカ。</p> <p>合綴注記 もと2、11~14、16~17、20~22、24~26、28~32、39~43、46~53、55~57、59、61~66、70~71、74~75、77、80~82、87~90、92、94~95、99、103~105、108~114、117~118、120、122、124~125、131~132、252、333~334を収納</p>

2. 書類の部 (資料
番号163~335)

2.1 手帳等 (資料
番号163~185)

163	手帳(ポケット日記)	小畑敏四郎		大正4年	<p>数量 1冊</p> <p>記述法 ペン</p>
164	手帳	小畑敏四郎		大正7年	<p>数量 1冊</p> <p>記述法 ペン</p> <p>備考 ロシアで出版された手帳</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
165	手帳(Diary)	小畑敏四郎		昭和4年	数量 1冊 付属資料 (1)整理封筒、1枚/(2)年代整理メモ、1枚 記述法 鉛筆
166	手帳(Diary)	小畑敏四郎		昭和5年	数量 1冊 付属資料 (1)覚紙、1枚/(2)整理封筒、1枚/(3)年代整理メモ、1枚 記述法 鉛筆
167	手帳(Diary)	小畑敏四郎		昭和6年	数量 1冊 付属資料 (1)整理封筒、1枚/(2)年代整理メモ、1枚 記述法 鉛筆、墨書
168	手帳(Diary)	小畑敏四郎		昭和7年	数量 1冊 付属資料 (1)昭和5年暦、1枚/(2)名刺(神野信一、安達信彦)、2枚/(3)メモ(「御進講ノ眼目」)、3枚/(4)しおり、1枚/(5)整理封筒、1枚/(6)年代整理メモ、1枚 記述法 鉛筆 備考 付属資料(1)~(3)はもとと表表紙裏のポケットに収納
169	手帳(Diary)	小畑敏四郎		昭和8年	数量 1冊 付属資料 (1)メモ(「更迭セスノ事」)、1枚/(2)整理封筒、1枚/(3)年代整理メモ、1枚/(4)鉛筆、1本 記述法 鉛筆 備考 付属資料(1)はもとと表表紙裏のポケットに収納
170	手帳	小畑敏四郎		昭和9年	数量 1冊 付属資料 (1)メモ(「8月27日」)、1枚/(2)整理封筒、1枚/(3)年代整理メモ、1枚 記述法 鉛筆、墨書 備考 付属資料(1)はもとと表表紙裏のポケットに収納
171	手帳	小畑敏四郎		昭和10年	数量 1冊 付属資料 (1)整理封筒、1枚/(2)年代整理メモ、1枚 記述法 鉛筆 備考 昭和銀行のノベルティ
172	手帳	小畑敏四郎		昭和11年	数量 1冊 付属資料 (1)整理封筒、1枚/(2)年代整理メモ、1枚 記述法 鉛筆 備考 昭和銀行のノベルティ

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
173	手帳	小畑敏四郎		昭和12年	数量 1冊 付属資料 (1)整理封筒、1枚/(2)年代整理メモ、1枚 記述法 鉛筆 備考 昭和銀行のノベルティ
174	手帳	小畑敏四郎		昭和13年	数量 1冊 付属資料 (1)住所録、4枚/(2)メモ(郵便貯金口座等)、3枚/(3)整理封筒、1枚/(4)年代整理メモ、1枚 記述法 鉛筆 備考 昭和銀行のノベルティ。付属資料(1)(2)はもと裏表紙裏のポケットに収納。
175	手帳	小畑敏四郎		昭和14年	数量 1冊 付属資料 (1)整理封筒、1枚/(2)年代整理メモ、1枚 記述法 鉛筆 備考 昭和銀行のノベルティ
176	手帳	小畑敏四郎		昭和15年	数量 1冊 付属資料 (1)メモ(ソ連情勢につき)、2枚/整理封筒、1枚/年代整理メモ、1枚 記述法 鉛筆 備考 付属資料(1)はもと裏表紙裏のポケットに収納
177	手帳	小畑敏四郎		昭和16年	数量 1冊 付属資料 (1)整理封筒、1枚/(2)年代整理メモ、1枚 記述法 鉛筆 備考 昭和銀行のノベルティ
178	手帳	小畑敏四郎		昭和17年	数量 1冊 付属資料 (1)整理封筒、1枚/(2)年代整理メモ、1枚 記述法 鉛筆 備考 三菱海上保険株式会社のノベルティ。1月の頁は落したかで失われ、2、6月には破り取られた頁あり。17年は2冊の日記を併用している。
179	手帳	小畑敏四郎		昭和17年	数量 1冊 内容 途中まで日並記として利用、その後は覚書 付属資料 (1)名刺(西澤竹蔵)、1枚/(2)メモ(人事に関するもの)、1枚/(3)整理封筒、1枚/(4)年代整理メモ、1枚 記述法 鉛筆 備考 昭和銀行のノベルティ。17年は2冊の日記を併用している。

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
180	手帳	小畑敏四郎		昭和18年	数量 1冊 付属資料 (1)整理封筒、1枚/(2)年代整理メモ、1枚 記述法 ペン 備考 昭和銀行のノベルティ。記述は1月と11～12月のみ。
181	手帳	小畑敏四郎		昭和19年	数量 1冊 付属資料 (1)新聞切抜(「航空兵器総局機構」、1枚/(2)整理封筒、1枚/ (3)年代整理メモ、1枚 記述法 鉛筆 備考 昭和銀行のノベルティ。付属資料(1)はもと裏表紙裏ポケットに収納。
182	手帳	小畑敏四郎		昭和20年	数量 1冊 付属資料 (1)整理封筒、1枚/(2)年代整理メモ、1枚 記述法 鉛筆、墨書 備考 昭和銀行のノベルティ
183	手帳	小畑敏四郎		昭和21年	数量 1冊 記述法 鉛筆、墨書 備考 東京芝浦電気ノベルティ
184	〔収納封筒「父手帖」〕	〔小畑又雄〕			数量 1枚 記述法 ペン 備考 次男又雄氏整理によるものカ 合綴注記 もと165～183を収納
185	昭21/11/3父の遺言の筆記	〔小畑又雄〕		昭和21年11月3日	数量 1冊 内容 葬儀の手配、死を知らせる範囲と方法、財産の事 記述法 鉛筆 備考 算術帳を利用

2.2 ロシア駐在時代(1915～18年・1920～23年) (資料番号186～206)

2.2.1 公用旅券

186	〔公用旅券〕	内田康哉(外務大臣)	小畑敏四郎	大正9年7月7日	数量 1枚 内容 ロシア大使館付駐在武官として出国する時のもの 記述法 ペン、印刷 備考 写真貼付
-----	--------	------------	-------	----------	--

2.2.2 電報

187	高柳少将(小畑大尉)発信露軍々用電報要目表			大正6年5月～12月	数量 1綴 内容 受信者、受信地、受付、字数、発信地、摘要、証拠書類番号 記述法 ペン
-----	-----------------------	--	--	------------	---

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
188	発電綴第二号	小畑敏四郎		〔4月〕22日～1月27日	数量 1冊 内容 電報宛先(石坂少将・陸軍・参謀本部・陸軍次官・参謀次長・大臣・総長、荒木中佐)、発信内容(ロシア国内情報とその分析)を時間刻みで記録 記述法 ペン 備考 小畑とは異筆による記録あり。修正跡もあり。
189	〔発電綴〕	小畑敏四郎		11月28日～12月19日	数量 1冊 内容 電報宛先(大臣・総長・高柳少将・荒木中佐等)、発信内容(欧州・ロシア情報とその分析)を記録 記述法 ペン 備考 小畑とは異筆による記録あり
190	〔発電綴〕	小畑敏四郎		5月31日～9月21日	数量 1冊 内容 電報宛先(総長・大臣・陸軍・参謀本部・石沢少将・内田大使)、発信内容(ロシア軍戦況情報、ロシア国内情報)を記録 記述法 ペン 備考 小畑とは異筆による記録あり

2.2.3 情報収集・分析

191	革命当時二於ケル議員党	小畑敏四郎			数量 1枚 内容 各党勢力 記述法 ペン
192	新連合内閣位職	小畑敏四郎			数量 1枚 内容 ケレンスキー内閣閣僚名メモ 記述法 ペン
193	ORGANISATION GENERATA				数量 1枚 内容 ソ連の行政と軍事組織 記述法 ペン、タイプ 備考 フランス語。日本語訳メモ書あり。
194	〔軍司令官・方面軍司令官名メモ〕	小畑敏四郎			数量 1枚 記述法 鉛筆
195	〔メモ帳〕				数量 46枚 内容 ロシア語単語、ロシア歴史、人名、支出、ロシア軍事に関する覚書、報告事項等の書付 記述法 鉛筆、ペン
196	〔ロシア語メモ〕	小畑敏四郎			数量 1枚 記述法 ペン
197	〔布陣図〕	小畑敏四郎			数量 1枚 記述法 鉛筆

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
198	Ouverture zur Oper	小畑敏四郎			数量 1枚 内容 開催中のオペラの題目と序曲リスト 記述法 ペン 備考 ドイツ語
199	〔絵葉書セット〕				数量 3枚 内容 ベルギー国王と后 付属資料 封筒、1枚 記述法 印刷 備考 未使用
200	在欧間感想雑記	小畑敏四郎			数量 1冊 内容 「邦人常識ノ欠乏」、「支那ニ対スル我通商貿易策」、「機動ノ為メニ八根本的編制改善ノ要アリ」、「築城陣地防御ノ要訣」、「対露通商貿易ノ将来」、「軍ノ教育ヲ實際活用的ノモノタラシムベシ」、「社会主義発生ノ動機」等 付属資料 ロシア語新聞切抜き、1枚 記述法 ペン 備考 付属資料はもとNo.17の頁に挟み込み
201	露曆一九一七年二月末ニ於ケル露都騒擾ノ経過並所見騒擾経過ノ概況【ほか一括】				
201-1	露曆一九一七年二月末ニ於ケル露都騒擾ノ経過並所見騒擾経過ノ概況	小畑敏四郎			数量 2枚 記述法 ペン 備考 修正跡あり 合綴注記 201~203は重ねられ、二つ折され、保管されていた
201-2	革命後ニ於ケル露軍情況管見	小畑敏四郎			数量 2枚 記述法 ペン
201-3	革命後ニ於ケル露軍ト政治トノ関係	小畑敏四郎			数量 3枚 記述法 ペン
201-4	感想	小畑敏四郎			数量 1枚 記述法 ペン
201-5	露軍ト政治トノ関係ニ就テ 其二	小畑敏四郎			数量 4枚 記述法 ペン
202	露国革命ノ齎シツツアル軍紀上ノ教訓	小畑敏四郎			数量 1綴(2枚) 記述法 ペン 備考 偕行社記事に投稿予定
203	露小報第十一号 千九百十七年秋ニ於ケル東方戦場ノ作戦ニ就テ	小畑敏四郎			数量 1綴(2枚) 記述法 ペン

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
204	一九一七年夏季二於ケル露国ノ攻勢作戦二就イテ【ほか一括】				
204-1	一九一七年夏季二於ケル露国ノ攻勢作戦二就イテ	小畑敏四郎			数量 2枚 記述法 ペン 備考 断片 合綴注記 204-1～5もとクリップで一括
204-2	一九一七年初夏二於ケル露軍攻勢作戦之管見	小畑敏四郎			数量 3枚 内容 「作戦準備並作戦計画」、「作戦開始前後二於ケル軍形勢」、「作戦実施」 記述法 ペン 備考 3枚中1枚は、7月23日小畑宛橋本書簡(新宣言の政府内容、当地静穏、大使夫人病気で帰朝)の裏面を使用
204-3	〔戦闘日並記〕	小畑敏四郎			数量 4枚 内容 7月1日～8日の戦闘詳報 記述法 ペン
204-4	一九一七年露軍夏期作戦二就テ	小畑敏四郎			数量 2枚 記述法 ペン
204-5	西方面軍作戦経緯ノ概要	小畑敏四郎			数量 3枚 記述法 ペン
205	〔メモ〕	小畑敏四郎			数量 1枚 内容 革命時の様子 記述法 ペン
206	〔資料収納袋「ロシア革命当時の父上の記録」〕	〔小畑又雄〕			数量 1枚 記述法 墨書 備考 布袋。次男又雄氏整理によるものカ。 合綴注記 もと186～205を取納

**2.3 参謀本部部員
(1919～20年)、
参謀本部第三部長
(1932年～35
年)、歩兵第十連隊
長時代(1928～19
31年) (資料番号2
07～210)**

207	小畑敏四郎(陸軍少佐)	小畑敏四郎		大正8年11月10日	数量 同文2綴 内容 一次大戦の教訓を踏まえての意見 記述法 謄写版(手書) 備考 極秘、編制研究会議で作成したもの
208	〔軍縮案〕	小畑敏四郎			数量 2枚 内容 師団と人員の削減案 付属資料 資料収納封筒(小畑又雄氏作成カ)、1枚 記述法 鉛筆

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
209	〔封筒「小畑敏四郎様親展十河生」〕 【ほか一括】				
209-0	〔封筒「小畑敏四郎様親展十河生」〕	〔十河信二〕	小畑敏四郎		数量 1枚 内容 南満州鉄道株式会社東京支社封筒 記述法 ペン 合綴注記 もと209-1～3を収納
209-1	満州国阿片、塩、金融関係方策案	〔南満州鉄道株式会社〕			数量 1綴 内容 南満州鉄道株式会社東京支社封筒 記述法 謄写版(活字) 備考 極秘印
209-2	満州国塩二関スル方策説明、満洲二於ケル物産購運問題満洲物産購運株式会社設立案	〔南満州鉄道株式会社〕		昭和8年	数量 1綴 記述法 謄写版(活字) 備考 極秘印 合綴注記 もと209-3を挟み込み
209-3	満鉄関係会社状況一覧	第五課		昭和7年8月	数量 1枚 記述法 謄写版(活字) 備考 「第三部長閣下」と書込み、赤鉛筆の書込み 合綴注記 もと209-2に挟み込み
210	「岡山歩兵隊除隊式」(『山陽新聞』切抜)	山陽新聞社		昭和3年11月28日	数量 1枚 記述法 印刷 備考 小畑の連隊長時代のもの

2.4 予備役時代(1936～45年) (資料番号211～221)

211	高等官職員表附学生名簿			〔昭和10年〕	数量 1綴 記述法 印刷 備考 陸大の名簿。小畑が校長時代のもの。
-----	-------------	--	--	---------	---

2.4.1 留守第十四師団長

212	留守第十四師団将校同高等官文官職員表	留守第十四師団司令部		昭和13年3月5日	数量 1枚 記述法 印刷 備考 軍事機密と印刷。小畑の師団長時代のもの。
-----	--------------------	------------	--	-----------	--

2.4.2 陸軍派閥抗争に関する回想

213	〔回想録〕 【ほか一括】				
-----	--------------	--	--	--	--

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
213-1	〔回想録〕	〔小畑敏四郎 〔口述〕・白石重 〔筆記〕〕		〔昭和19年〕	数量 1綴+数片 内容 213-2によれば新聞記者白石重が小畑の口述をまとめたもの。昭和20年憲兵に押収されるのを恐れ、かめに入れへチマダの下に埋めたという。 記述法 ペン 用紙 東亜研究所原稿用紙 備考 字が薄くなっており判読困難。『作戦の鬼 小畑敏四郎』に翻刻引用。
213-2	二 新しき派閥の発生	〔小畑敏四郎 〔口述〕・白石重 〔筆記〕・小畑又雄 〔翻刻〕〕			数量 1綴(9枚) 内容 213-1を後年書き起こしたもの。二葉会結成の背景、永田の台頭、「陸軍若返り運動」、東条批判等。 記述法 ペン

2.4.3 津野田事件 (東条英機暗殺計画)

214	津野田事件参考	小畑敏四郎		昭和19年11月	数量 1冊 内容 「昭和19年11月17日東部軍臨時軍法会議 島田(明三郎)検察官卜対談要旨」 記述法 鉛筆、墨書
215	出頭方ノ件	島田明三郎(東部軍臨時軍法会議検察官陸軍法務中将)		昭和19年11月10日	数量 1枚 内容 津野田事件尋問のため、軍法会議への出頭を命じる。 付属資料 封筒、1枚 記述法 ペン 用紙 陸軍用箋

2.4.4 終戦工作

216	戦争収拾の前提要件に関する覚書			昭和20年7月26日	数量 1綴 内容 対外環境 記述法 謄写版(活字)
217	〔封筒 終戦工作の頃(昭18-20)〕 【ほか一括】				
217-0	〔封筒 終戦工作の頃(昭18-20)〕	〔小畑又雄〕			数量 1枚 記述法 鉛筆 備考 次男又雄氏整理によるものカ 合綴注記 もと217-1~2を収納
217-1	昭和十一年陸軍大学卒業式参考書	陸軍大学校		昭和11年	数量 1綴 内容 217-0によれば終戦工作の協力者に目星をつけるために利用 記述法 印刷 備考 歴代の卒業生名簿に○印等書込み

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
217-2	〔終戦工作協力者候補者メモ〕	小畑敏四郎			数量 1冊 内容 217-0によれば終戦工作の協力者候補の氏名、陸代卒業期の書き上げ 記述法 鉛筆 備考 「腹黒シ」などと書込み。頁の多くが切り取られている。
218	〔吉田茂〕意見書	〔吉田茂〕			数量 14枚 内容 次なる内閣の外交方針について 付属資料 (1)封筒、1枚/(2)全文翻刻、1枚/(3)メモ「内外ノ情勢」、1枚 記述法 ペン 用紙 吉田用箋 備考 鈴木貫太郎内閣の成立前に書かれたものカ
219	国民護国隊ノ編成				数量 1綴(5枚) 記述法 謄写版(手書)

2.4.5 揮毫

220	〔揮毫「積善之余慶」〕	小畑敏四郎		昭和13年春	数量 同文3枚 記述法 墨書 用紙 3枚中1枚は絹本
221	〔揮毫「無遠慮有近憂」〕	小畑敏四郎		昭和13年春	数量 同文2枚 記述法 墨書

2.5 国務大臣時代
(1945年) (資料番号222~262)

2.5.1 陸軍関係

222	陸軍ノ節度確立二就テ				数量 1綴 内容 「陸軍二対スル各方面ノ態度」等 記述法 謄写版(手書) 備考 裏紙を利用
223	〔メモ〕	小畑敏四郎		昭和20年	数量 1枚 内容 軍保有品の各所への移動について 記述法 鉛筆 用紙 内閣用箋

2.5.2 閣議等配布資料

224	〔封筒「昭20/8/20」〕 【ほか一括】				
224-0	〔封筒「昭20/8/20」〕	〔小畑又雄〕		〔昭和20年8月20日〕	数量 1枚 記述法 鉛筆 備考 次男又雄氏整理によるものカ。「この日父の帰宅遅し」等と書込み。 合綴注記 もと224-1~3を収納

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
224-1	米・英・重慶側ノ対日無条件降伏内容ノ一部 七月二六日入手			〔昭和20年8月20日〕	数量 1綴 記述法 謄写版(手書) 備考 「米国ト日本知米派ノ合作」、「木戸内府曰ク「御讓位ダケデスメバヨイガネ」」等終戦工作に向けての書込み多数
224-2	米・英・重慶側ノ対日無条件降伏内容ノ一部 七月二六日入手			〔昭和20年8月20日〕	数量 1綴 記述法 謄写版(手書)
224-3	〔8月20日東久邇首相のラジオ放送草稿〕			〔昭和20年8月20日〕	数量 1枚 内容 クーデターを防ぐ目的 記述法 ペン 備考 「御新政奉行次第書」の裏面使用
225	昭和二十年八月二十一日閣議事項午後二時閣議 同五時半散会			昭和20年8月21日	数量 1綴 内容 閣議配布物、「商工省ノ設置並軍需相及大東亜省ノ廃止ニ関スル要領」等 記述法 墨書、謄写版(ペン) 用紙 内閣用箋 備考 秘印あり、書込みあり
226	昭和二十年八月二十三日臨時閣議			昭和20年8月23日	数量 1綴 内容 閣議配布物、「大本營及政府終戦事務連絡委員会設置ノ件」等 記述法 墨書、謄写版(ペン) 用紙 内閣用箋 備考 秘印あり
227	昭和二十年八月二十五日定例閣議			昭和20年8月25日	数量 1綴 内容 閣議配布物、「昭和二十一年度予算編成ニ関スル件」等 付属資料 しおり、1枚 記述法 墨書、謄写版(ペン) 用紙 内閣用箋 備考 秘印あり、書込みあり
228	昭和二十年八月二十六日臨時閣議			昭和20年8月26日	数量 1綴 内容 閣議配布物、「警察力整備拡充要領」等 付属資料 しおり、1枚 記述法 墨書、謄写版(ペン) 用紙 内閣用箋 備考 極秘印あり、書込みあり
229	昭和二十年八月二十八日定例閣議午前十時開会、午後一時散会			昭和20年8月28日	数量 1綴 内容 閣議配布物、「一般命令第一号(陸、海軍関係)」等 付属資料 しおり、1枚 記述法 墨書、謄写版(ペン) 用紙 内閣用箋 備考 極秘印あり、書込みあり

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
230	昭和二十年八月三十一日定例閣議文書午前十時開会、午前一時散会			昭和20年8月31日	数量 1綴 内容 閣議配布物、「恩赦奏請要領案」等 記述法 墨書、謄写版(ペン) 用紙 内閣用箋 備考 極秘印あり、書込みあり
231	昭和二十年九月一日臨時閣議文書午後三時開会、同六時散会			昭和20年9月1日	数量 1綴 内容 閣議配布物、「開院式勅語案」等。表紙の内容摘記には「一、開院式勅語案 二、降伏文書 三、一般命令第一号、四、第八十八回帝国議会ニ於ケル内閣総理大臣演説案」と記載。 記述法 墨書、謄写版(タイプ) 用紙 内閣用箋 備考 極秘印あり、書込みあり
232	昭和二十年九月四日 院内閣議書類			昭和20年9月4日	数量 1綴 内容 閣議配布物、「帝国陸軍復員ニ関スル要領」等 記述法 墨書、謄写版(タイプ) 用紙 内閣用箋 備考 軍事機密印、極秘印あり、書込みあり
233	昭和二十年九月五日 院内閣議関係書類			昭和20年9月4日	数量 1綴 内容 閣議配布物、「外征部隊及居留民帰還輸送ニ関スル件」(案)等 記述法 墨書、謄写版(タイプ) 用紙 内閣用箋 備考 軍事機密印、極秘印あり、書込みあり
234	昭和二十年九月七日 定例閣議案 午前九時開会、午後一時散会			昭和20年9月7日	数量 1綴 内容 閣議配布物、「外征部隊及居留民帰還輸送等ニ関スル実施要領」等。 記述法 墨書、謄写版(手書、タイプ) 用紙 内閣用箋 備考 秘印あり、書込みあり
235	昭和二十年九月十一日 定例閣議案件			昭和20年9月11日	数量 1綴 内容 閣議配布物、「終戦事務処理機関ニ関スル件」等。表紙の内容摘記には「一、戦争事務処理機関ニ関スル件 二、戦後ニ於ケル国民貯蓄増強ノ件 三、在外軍隊ノ帰還途ノ給養等ノ件」と記載。 付属資料 「復員用船舶抽出ト其ノ影響」、1枚 記述法 墨書、謄写版(タイプ) 用紙 大日本帝国政府用箋 備考 極秘印あり、書込みあり。付属資料はもと最終頁の前に挟み込み。

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
236	昭和二十年九月十二日 臨時閣議案件			昭和20年9月12日	<p>数量 1綴</p> <p>内容 閣議配布物、「政府声明案」(俘虜虐待)等。表紙の内容摘記には「一、政府声明案(俘虜抑留者虐待等) 二、終戦審議会案 三、アトロンテー、キャンペーンニ関スル報道例」と記載。</p> <p>記述法 墨書、謄写版(手書、タイプ)</p> <p>用紙 大日本帝国政府用箋</p> <p>備考 書込みあり</p>
237	台湾治安概況			昭和20年9月13日	<p>数量 1枚</p> <p>内容 閣議配布物カ</p> <p>記述法 謄写版(手書)</p> <p>用紙 大日本帝国政府用箋</p>
238	昭和二十年九月十四日、定例閣議			昭和20年9月14日	<p>数量 1綴</p> <p>内容 閣議配布物、「連合軍駐在軍ノ駐屯費支出方法ニ関スル件」表紙の内容摘記には「連合軍進駐ノ駐屯費支出方法ニ関スル件」等。表紙の内容摘記には「一連合軍進駐軍ノ進駐費支出ノ件 二 朝鮮内ノ情況 三 樺太内ノ情況」と記載。</p> <p>付属資料 しおり、1枚</p> <p>記述法 墨書、謄写版(手書、タイプ)</p> <p>用紙 大日本帝国政府用箋</p> <p>備考 極秘印あり</p>
239	昭和二十年九月十八日 定例閣議案件			昭和20年9月18日	<p>数量 1綴</p> <p>内容 閣議配布物、「全波受信機ニ関スル件」等。表紙の内容摘記には「一、全波受信機ニ関スル件、二、経済院制前後措置ニ関スル件、三、復員ニ伴フ陸軍中央官衙ノ整理、四、戦争終結ニ関シ発スル命令、五、食糧確保ニ関スル緊急措置方針」と記載。</p> <p>付属資料 しおり、1枚</p> <p>記述法 ペン、謄写版(タイプ)</p> <p>用紙 大日本帝国政府用箋</p> <p>備考 書込みあり、極秘印あり</p>
240	昭和二十年九月二十一日 定例閣議案件			昭和20年9月21日	<p>数量 1綴</p> <p>内容 閣議配布物、「疎開者罹災都市復帰ノ制限緩和ニ就テ」等。表紙の内容摘記には「一、疎開者、戦災者都市復帰制限緩和ノ件 二、警察改善調査委員会設置ノ件」と記載。</p> <p>付属資料 しおり、1枚</p> <p>記述法 ペン、謄写版(手書)</p> <p>用紙 大日本帝国政府用箋</p> <p>備考 書込みあり</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
241	昭和二十年九月二十五日 定例閣議案件			昭和20年9月25日	数量 1綴 内容 閣議配布物、「連合軍財産ノ保全ニ関スル件」等。表紙の内容摘記には「一 連合軍財産ノ保全ニ関スル件、二 戦時法令ノ整理ニ関スル件、三 農村必要物資配給体制ニ関スル件(了解済)」と記載。 記述法 ペン、謄写版(タイプ) 用紙 内閣用箋 備考 書込みあり
242	終戦後ニ於ケル樺太ノ情况(昭和二〇.九.二五)			昭和20年9月25日	数量 1綴 内容 樺太庁小倉警部聴取により作成。閣議配布物カ。 記述法 謄写版(ペン) 備考 秘印あり
243	昭和二十年九月二十八日 定例閣議案件			昭和20年9月27日	数量 1綴 内容 閣議配布物、「鉄道復興ニ関スル件」等。表紙の内容摘記には「一、鉄道復興ニ関スル件 二、鉄道ノ現況ト復興対策 三、転換工場一覧表 四、指令第三号ノ真意釈明ニ関スル件 五、議会制度審議会官制要領 六、地方行政事務局設置案」と記載。 記述法 墨書、謄写版(手書、タイプ) 用紙 内閣用箋 備考 書込みあり
244	昭和二十年十月二日 定例閣議文書			昭和20年10月2日	数量 1綴 内容 閣議配布物、「自動車特別使用収用規則」等。表紙の内容摘記には「一、自動車特別使用収用規則 一、造船事業関係会社ノ事業報告書ニ関スル件 一、終戦後ニ於ケル運輸関係実施事務報告」と記載。 記述法 墨書、謄写版(手書、タイプ) 用紙 内閣用箋 備考 秘印あり、書込みあり
245	〔閣議配布文書九月～十月〕			〔昭和22年〕9月22日～10月2日	数量 1綴 内容 閣議配布物、1頁目に「総理要求事項 九月二十二日臨閣議」とあり、次ページ以降「軍中央機関ノ整理ニ関スル件」等の閣議配布物が綴られる。 記述法 墨書、謄写版(手書、タイプ) 用紙 内閣用箋 備考 極秘印あり、書込みあり
246	昭和二十年勅令第五百四十二号(「ポツダム」宣言ノ受託ニ伴ヒ発スル命令ニ関スル件)ニ基ク閣令及省令ノ件			昭和20年9月22日	数量 1枚 内容 閣議配布物カ 記述法 鉛筆、謄写版(タイプ) 備考 書込みあり

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
247	〔大蔵省令・告示案〕			昭和20年9月	数量 1枚 内容 閣議配布資料カ。占領軍発行B号円表示補助通貨に関して。 記述法 鉛筆、謄写版(タイプ) 備考 書込みあり
248	〔終戦連絡事務局官制案〕			〔昭和20年9月〕	数量 1綴 内容 閣議配布資料カ 記述法 鉛筆、謄写版(手書) 備考 書込みあり
249	戦後対策審議会関係文書 昭和二十年九月二十七日			昭和20年9月27日	数量 1綴 内容 官制や構成員名簿、諮問事項、参考資料(「総合経済概況」内閣調査局、昭和20年9月)等 付属資料 しおり、1枚 記述法 墨書、謄写版(手書、タイプ) 用紙 内閣用箋 備考 書込みあり

2.5.3 新聞雑誌切抜き・情報収集

250	『日本週報』1～4、6～7、18号	日本週報社		昭和20～21年	数量 6冊 記述法 印刷 備考 6～7号は合併号
251	『日本週報』3、4、8、11～17号	日本週報社		昭和20～21年	数量 1綴(8冊) 付属資料 弘道館公園の絵葉書、1枚 記述法 印刷 備考 付属資料は4号の次にはさみ込まれていた。14～15号、17～16号は合併号。 合綴注記 麻紐で一括。もと279を挟み込み。
252	『大日本協会報』84～85号	大日本協会		昭和21年2月25日	数量 2冊 記述法 印刷 備考 赤鉛筆で傍線が引いてある文章あり 合綴注記 もと162に収納
253	近衛文麿関係記事(新聞記事切抜き)	朝日新聞社		昭和20～21年	数量 12枚 内容 『朝日新聞』切抜き。「日米危機の関頭に立てる近衛上奏文」、「故近衛公の覚書三国同盟について」、「御前会議と日米交渉の経過」、連載「日米交渉近衛公手記」2～10。 記述法 印刷 備考 「日米交渉近衛公手記」9の裏面記事は「天皇制を形成する支配網を除去 新日本出発の道開く」、「日本管理の新方式外相会議決定」で、傍線が引いてある。
254	迫水久常関係記事(新聞記事切抜き)	朝日新聞社		昭和21年	数量 6枚 内容 『朝日新聞』切抜き。連載「降伏時の真相 鈴木内閣書記官長迫水久常」1、3～7。 記述法 印刷 備考 5には、国民と天皇の地位に関するポツダム宣言の読み方には傍線が引いてある

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
255	東京裁判関係記事 (新聞記事切抜)	東京新聞社・ 毎日新聞社		昭和21年	数量 3枚 内容 『東京新聞』『毎日新聞』原紙。「東京裁判開く」「第一級戦犯人廿八名起訴状」「軍部専横のあと歴然 公開された木戸日記」。 記述法 印刷
256	対米開戦関係記事 (新聞記事切抜)	東京新聞社・ 毎日新聞社		昭和20年	数量 3枚 内容 『朝日新聞』切抜き。「太平洋戦争史 真実なき軍国日本の崩潰」「日本はかくて破れぬあの時と語る鈴木貫太郎男」「米国の対外政策」。 記述法 印刷 備考 傍線あり。「太平洋戦争史」の「荒木大将の下では思想取締中枢部組織網が嚴重な統率」というところに「？」と書込み。
257	意見書綴			昭和20年	数量 1冊 内容 敗戦後すぐ、小畑のもとに送られてきた、或いは配布された善後策を綴ったもの。 付属資料 資料収納封筒(国学院大学日本文化研究所)、1枚 記述法 墨書 用紙 大日本帝国政府用箋 備考 資料収納封筒に「題字は異筆」と記載
(細目)257-1	将来の国体護持は容易の業に非ず-緊急を要する百忍護持案私見	笠木良明(大東亜建設社)		昭和20年9月11日	記述法 謄写版(手書) 備考 ◎印等小畑による書込みあり
(細目)257-2	「万世太平宣言」二基ク政策要領草案	大岸頼好		〔昭和20年〕	記述法 謄写版(手書)
(細目)257-3	末章 米国アジア政策の本質	Owen Lattimore		昭和20年1月	記述法 謄写版(活字) 用紙 内閣府用箋 備考 Solution in Asiaの翻訳、抜粋
(細目)257-4	〔あいさつ文〕	諸橋亮介	小畑敏四郎	〔昭和20年〕9月13日	記述法 ペン 用紙 原稿用紙
(細目)257-5	戦国戦敗の原因	諸橋亮介		昭和20年9月8日	記述法 ペン 用紙 原稿用紙
(細目)257-6	日本再建二就テノ管見若干	〔芳村正義〕		昭和20年9月6日	記述法 ペン 用紙 陸軍用箋 備考 東条内閣と大本営が国際情勢の判断を誤ったとの記述等に赤線が引かれた箇所あり。「乞御焼却」と書込み。
(細目)257-7	戦後ヨリ観タル日本今後ノ戦争指導ト時局突破対策二就イテ	芳村正義(陸軍少将)		昭和20年8月27日	内容 昭和20年4月14日敗戦を見越してブーゲンビルで認めたものという。 記述法 謄写版(活字) 備考 「乞御焼却」と書込みあり。

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
(細目)257-8	真日本乃建設	菅原裕(菅原裕法律事務所)	小畑敏四郎		記述法 墨書 用紙 菅原裕法律事務所用箋
258	太平洋世界ノ時代ノ形成ト日本ノ将来	作成者不明		昭和20年1月20日	数量 1綴(9枚) 記述法 謄写版(活字) 備考 極秘印
259	〔陛下の戦争責任について〕	作成者不明	小畑敏四郎	〔昭和20年〕9月20日	数量 1綴(6枚) 記述法 墨書 備考 宛先は「小幡閣下」

2.5.4 その他

260	伝単ピラ(日本の皆様)	〔アメリカ軍〕		〔昭和20年8月〕	数量 1枚 記述法 印刷 備考 「空からのピラ」と書込み
261	銃砲火薬類保管証	府中警察署	小畑敏四郎	昭和20年10月1日	数量 1枚 内容 指揮刀3振、連合国の要求により警察署で保存。 記述法 謄写版(手書) 合綴注記 もと326に収納
262	証人に就いて	〔菅原裕〕		〔昭和21年〕	数量 1綴(6枚) 内容 弁護側証人として小畑を召喚するための準備資料カ。「共同謀議なかりし事」、「侵略の意図なかりし事」等小畑に証言してほしい事について。 付属資料 資料収納封筒(小畑又雄氏作成カ)、1枚 記述法 ペン 備考 草稿 合綴注記 付属資料はもと8~10を収納

2.6 履歴資料(資料番号263~271)

2.6.1 位記・勲記・写真

263	勲記「勲四等旭日小綬」		小畑敏四郎	大正4年11月7日	数量 1枚 記述法 墨書
264	勲記「勲三等瑞宝章」		小畑敏四郎	大正12年9月30日	数量 1枚 記述法 墨書 備考 箱入り
265	勲記「勲二等瑞宝章」		小畑敏四郎	昭和9年2月7日	数量 1枚 記述法 墨書 備考 箱入り。266が265の箱に入っていたので入れ替えた。

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
266	勲記「旭日重光章」		小畑敏四郎	昭和9年4月29日	数量 1枚 記述法 墨書 備考 箱入り。266が265の箱に入っていたので入れ替えた。
267	位記「叙二位」		小畑敏四郎	昭和9年5月9日	数量 1枚 記述法 墨書 備考 筒入り
268	勲記「勲一等瑞宝章」		小畑敏四郎	昭和15年4月29日	数量 1枚 記述法 墨書 備考 箱入り
269	写真(「祖父一族の写真」)				数量 1枚 付属資料 封筒、1枚 記述法 写真(ネガフィルム)

2.6.2 葬儀

270	〔封筒(父葬儀のりと)〕 【ほか一括】				
270-0	〔封筒(父葬儀のりと)〕			昭和22年1月	数量 1枚 記述法 ペン 合綴注記 もと270-1～3を収納
270-1	〔祝詞〕			〔昭和22年1月〕	数量 2枚 記述法 墨書 備考 小畑の生涯をたどる文言あり
270-2	荒木大将より	荒木貞夫		〔昭和22年1月〕	数量 1枚 付属資料 封筒、1枚 記述法 墨書 備考 和歌4首
270-3	荒木貞夫書簡	荒木貞夫	小畑千鶴子	〔昭和22年〕1月29日	数量 1枚 内容 小畑の訃報を聞いて認めたもの。公私ともに御厄介に。元来の無理なる裁判について皇国のために申述べたいことがある。 記述法 墨書
271	弔辞	山内繁雄		〔昭和20年〕	数量 1枚 付属資料 包紙、1枚 記述法 墨書

2.7 土地家屋関係
(資料番号272～287)

2.7.1 白金

272	土地及建物登記人表示変更登記申請	小畑敏四郎・市原又四郎	東京区裁判所	昭和8年2月6日	数量 1綴 内容 白金の土地 付属資料 封筒、1枚 記述法 カーボン(手書)
-----	------------------	-------------	--------	----------	---

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
273	〔領収証〕	助川満亀男	小畑	昭和9年5月30日	数量 2枚 内容 新築工事大工一切 記述法 カーボン(手書)
274	小畑家家屋移転出願平面図			昭和11年	数量 1枚 内容 白金の家青焼図面 記述法 印刷

2.7.2 世田谷

275	〔封筒「世田谷宅工事設置設計御図面及保存登記証領収証在中」【ほか一括】				
275-0	〔封筒「世田谷宅工事設置設計御図面及保存登記証領収証在中」				数量 1枚 内容 資料収納封筒 記述法 ペン 合綴注記 275～276はもとビニル袋に一括
275-1	領収証	松尾玄吾	小畑敏四郎	昭和11年11月1日	数量 1枚 内容 譲渡金額 記述法 ペン 備考 印紙貼付
275-2	証	中村匠(土木請負業)	小畑敏四郎	昭和11年12月28日～12年7月14日	数量 7枚 内容 新築工事請負金 記述法 ペン 備考 印紙貼付 合綴注記 もと275-4にクリップ止め
275-3	記	中村匠(土木請負業)	小畑敏四郎	昭和11年12月28日	数量 1枚 内容 地祭り費等 記述法 ペン 合綴注記 もと275-4にクリップ止め
275-4	小畑邸建設工事契約書	中村匠(請負人)	小畑敏四郎	昭和11年12月23日	数量 1綴 記述法 ペン 合綴注記 275-2～3は275-4にもとクリップ止め
275-5	建物所有権利保存登記申請	中村匠(請負人)	小畑敏四郎	昭和18年	数量 1綴 記述法 ペン
275-6	〔青焼き図面平面図〕			〔昭和11年〕	数量 2枚 記述法 印刷
276	〔世田谷自宅立体図〕			〔昭和11年〕	数量 3枚 付属資料 封筒「白金、世田谷、国分寺書類」、1枚 記述法 鉛筆 合綴注記 275～276はもとビニル袋に一括

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
2.7.3 国分寺					
277	国分寺関係ノモノ			昭和9～15年	数量 12枚+1綴 内容 「荻島氏話」(3月28日)、〔地目変更依頼〕(昭和9年7月13日)、西本得蔵宛小畑敏四郎書簡、〔用水路概観図〕、小畑敏四郎宛荻島事務所書簡、〔間取り図〕、〔国分寺台下面積〕、小畑敏四郎宛荻島録郎書簡(昭和15年6月11日)、特殊郵便物受領証、〔電話線につき問い合わせ〕、土地分譲計画疑義、小畑敏四郎宛荻島録郎書簡(昭和15年6月20日)、荻島ト口約 付属資料 封筒、1枚 記述法 ペン他 合綴注記 もとクリップ一括
278	国分寺台上登記謄本	野村繁(司法書士)	小畑敏四郎	昭和11年12月	数量 1綴 付属資料 封筒、1枚 記述法 印刷(謄写版)
279	野村繁書簡	野村繁(東京民事地方裁判所所属司法書士)		昭和18年6月14日～31日	数量 3通(4枚) 内容 6月14日書簡は登記完了、21日書簡は十河一元に係る所有権保有登記完了、31日書簡は領収証について 付属資料 〔建物所有権保有登記完了通知〕(十河宛)、2枚 記述法 ペン 合綴注記 もと251の4号5号間に挟み込み
280	契約書	見城一(東京都立機械工業学校報告団)	小畑敏四郎	昭和19年12月25日	数量 2枚 内容 小畑の土地を無償にて借り受ける。 付属資料 封筒、1枚 記述法 ペン
281	請取証	吉田栄吉	小畑	5月27日	数量 3枚 内容 植根工事 記述法 ペン
282	〔領収証〕	鴨下孝三郎(司法書士)	小畑敏四郎	12月4日	数量 1枚 内容 合筆変更等印紙書書謄本 記述法 ペン
283	〔国分寺土地取得書類〕				数量 2綴+2枚 内容 「用水路変更届」(昭和14年11月15日)、「売買契約」(昭和11年7月4日)、「□谷戸分譲予定図」(荻島事務所)、〔工事費等負担覚書〕 付属資料 封筒、1枚 記述法 ペン他
284	証				数量 1綴 内容 国分寺土地売買契約 記述法 ペン

2.7.4 その他

285	〔家屋平面図、立体図〕				数量 1枚 記述法 鉛筆
-----	-------------	--	--	--	-----------------

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
286	〔名刺〕	岡部高三郎(太陽土地株式会社)・金子重蔵(太陽土地株式会社)			数量 2枚 記述法 印刷
287	〔方角〕				数量 1枚 内容 「本命的殺の早繰表」、「毎年の九星盤巡り方」 付属資料 包紙、1枚 記述法 ペン

2.8 子息又雄氏による小畑敏四郎研究資料 (資料番号 288~326)

2.8.1 又雄氏による回想

288	〔封筒「昭和56年春」〕 【ほか一括】				
288-0	〔封筒「昭和56年春」〕	〔小畑又雄〕			数量 1枚 内容 子息又雄氏による小畑のエピソード集。小畑の伝記作成者須山幸男へ送ったもの。 記述法 ペン 備考 次男又雄氏整理によるものカ 合綴注記 もと288-1~2を収納
288-1	父の性格 私の印象に強く残っていること	小畑又雄			数量 1綴 内容 軍人としての考え方、東条系との違いについて。 記述法 電子式複写 備考 139、185についての記述あり
288-2	父の話	小畑又雄			数量 1綴 内容 二二六事件前夜のこと、東久邇内閣入閣のこと、和平工作の頃、東条内閣打倒運動 等 記述法 ペン
289	父について	小畑又雄		昭和63年	数量 6枚 内容 メモ。近衛歩兵第一連隊附のころの小畑について。 記述法 ペン 備考 「中谷氏口述筆記」。中谷は小畑の元部下カ。
290	四元義隆との対談 ③父の思い出	〔小畑又雄〕		昭和57年5月16日	数量 2巻 内容 録音テープ 付属資料 〔「四元義隆氏ヒヤリング」〕、1枚

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
2.8.2 又雄氏収集 小畑敏四郎記事(雑誌等)					
291	「政界指南 四元義隆の戦後宰相外伝 1」(『週刊朝日』記事コピー)【ほか一括】				
291-1	「政界指南 四元義隆の戦後宰相外伝 1」(『週刊朝日』記事コピー)	『週刊朝日』		平成7年8月18日	数量 1綴 記述法 印刷
291-2	「政界指南 四元義隆の戦後宰相外伝 2」(『週刊朝日』記事コピー)	『週刊朝日』		平成7年9月1日	数量 1綴 内容 小畑に関する記事あり 記述法 印刷 備考 小畑に関する記事に傍線が引いてある
292	伊藤隆「吉田茂書簡」(『日本歴史』725コピー)	吉川弘文館		平成20年10月1日	数量 1綴 内容 昭和22年1月18日真崎勝次宛吉田茂書簡。小畑の逝去を惜しむ記述がある。 記述法 印刷 合綴注記 もと298-2を挟んでいた
293	〔封筒「戦後父上の記事の出た雑誌 保存してあった分だけ 平成十二年八月整理す」〕【ほか一括】				
293-0	〔封筒「戦後父上の記事の出た雑誌 保存してあった分だけ 平成十二年八月整理す」〕	〔小畑又雄〕		平成12年	数量 1枚 記述法 ペン 備考 次男又雄氏整理によるものカ
293-1	『週刊読売』14-32、33、34	読売新聞社		昭和30年8月14～28日	数量 1綴(3冊) 内容 「日本帝国最期の真相 東久邇元総理の秘録」の連載三回分が掲載。昭和20年8月20日青年将校の蹶起計画と小畑の行動について。 記述法 印刷 合綴注記 294-1～3もと麻紐で一括

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
293-2	〔小畑敏四郎に関する戦後における雑誌記事切抜き綴〕	『中央公論』・『現代の眼』・『富山新聞』・『文芸春秋』・『人物往来』・『人と日本』・『日本週報』		昭和21～昭和50年	<p>数量 1綴(22綴+1枚)</p> <p>内容 近衛文麿と野坂参三、日本派閥抗争百年史、ハト将軍、東条暗殺計画の真相、近衛文麿と木戸幸一、秘録東条事件、独裁者東条首相の暗殺計画、ヨハンセン事件吉田茂の検挙、動乱昭和に立つ天皇、日本軍隊終焉の内閣、陸軍軍務局の支配者、暗殺された二将軍、日本バドリオ事件顛末、亡国の人と政治、教育総監の更迭、十一月事件の全貌、秘められた二二六事件の真相、吉田茂逮捕の真相、私はこうして北満鉄道を買った、統制皇道派対立の真因、小畑敏四郎と永田鉄山のケンカ、皇道派起用の失敗と日米戦争、現天皇と皇族軍人の責任、陸軍に追いつく水平運動</p> <p>記述法 印刷</p> <p>備考 近衛の終戦工作計画と小畑／暗殺計画を立てた将校が小畑に打ちあける場面／天皇や木戸は小畑・真崎を嫌っている旨、近衛発言／三笠宮は後継陸相に小畑を挙げる／近衛の東条内閣倒閣計画と小畑／小畑入閣の背景／永田と小畑の日ソ不可侵条約をめぐる対立／東条内閣倒閣後の陸相候補小畑／北満鉄道買収に小畑反対／小畑による神州丸建造</p> <p>合綴注記 (3)ハト将軍は綴られていない</p>
293-3	〔戦後における小畑敏四郎に関する雑誌記事切抜き綴〕	『週刊読売』・『週刊サンケイ』・『丸』・『週刊朝日』		昭和31～平成7年	<p>数量 1綴(17綴)</p> <p>内容 東条暗殺計画をめぐる人たち、特別企画二二六事件、『近衛上奏文』を死守した小りんさん、陸軍の悲劇作戦の鬼野に下る、入閣から事件勃発まで、3月事件と10月事件、共産革命をおそれた近衛公、民主国家日本の誕生の内幕、天皇を動かした和平工作、カミソリ東条つるし上げ、カメラでとらえたビックニュース戦後12年、高松宮と東条英機、政界指南四元義隆の戦後宰相外伝1、政界指南四元義隆の戦後宰相外伝2、政界指南四元義隆の戦後宰相外伝3、政界指南四元義隆の戦後宰相外伝4、中曽根首相が指南番と仰ぐ四元義隆氏の実像</p> <p>記述法 印刷</p> <p>備考 (4)陸軍の悲劇作戦の鬼野に下る は小畑の伝記</p>
293-4	『日録20世紀1929昭和4年』	講談社		平成10年	<p>数量 1冊</p> <p>記述法 印刷</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
294	荒木貞夫関係記事 (新聞記事切抜)			昭和30年	数量 22枚 内容 「風雲の三十年」4～9、11～20、22、24～27、「張作霖爆殺事件にからむ四将軍の覚書を発見」 付属資料 資料収納封筒、1枚 記述法 印刷 備考 もとクリップ一括。「張作霖爆殺事件にからむ四将軍の覚書を発見」には「父上には関係なければ興味深いのでお送りします」と書込み。 合綴注記 付属資料はもと294～297を収納
295	軍閥関係記事(新聞記事切抜)	産経新聞社		昭和33年	数量 27枚 内容 『産経新聞』切抜、伊藤正徳「軍閥興亡史」中編 記述法 印刷 合綴注記 もと294の付属資料に収納
296	軍閥関係記事(新聞記事切抜)	産経新聞社		昭和33年	数量 19枚 内容 『産経新聞』切抜、伊藤正徳「軍閥興亡史」続篇 記述法 印刷 合綴注記 もと294の付属資料に収納
297	軍閥関係記事(新聞記事切抜)			昭和37年	数量 8枚 内容 立野信之「昭和軍閥」 記述法 印刷 合綴注記 もと294の付属資料に収納
298	『防災と開発』創業記念号【ほか一括】				
298-1	『防災と開発』創業記念号	清喜開発株式会社		昭和52年6月	数量 1冊 内容 清喜開発株式会社代表者酒井純次が『富山新聞』に寄稿した、小畑についてのエピソード「ハト将軍」が掲載 付属資料 写真(和装の男性)、1枚 記述法 印刷
298-2	小畑中将の思い出	酒井純次			数量 同文2綴 内容 酒井は小畑家の書生を務めていた。 記述法 電子式複写 合綴注記 もと292に挟まれていた

2.8.3 伝記編纂(一雄・又雄氏宛書簡)

299	荒木貞夫書簡	荒木貞夫	小畑一雄	〔昭和29年〕1月30日	数量 1通 内容 体調見舞い 記述法 墨書 合綴注記 もと301-1の付属資料に同封されていた
-----	--------	------	------	--------------	--

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
300	荒木貞夫書簡	荒木貞夫	小畑一雄	昭和32年2月3日	数量 1通 内容 昨今世界は一切を通じて新たに動き始め居り、我国も愚国に居るべきにあらず。 記述法 墨書 合綴注記 もと326に収納
301	荒木大将の見識 【ほか一括】				
301-1	荒木大将の見識	荒木貞夫先生 米寿祝賀会		昭和39年	数量 1冊 内容 巣鴨に入る荒木を小畑が見送ったという記述あり 付属資料 封筒、1枚 記述法 印刷 合綴注記 付属資料にもと300、301-2、3が同封されていた
301-2	荒木貞夫先生米寿 記祝賀会	荒木貞夫先生 米寿祝賀会事 務局		昭和39年5月26 日	数量 1冊 記述法 印刷 合綴注記 もと301-1の付属資料に収納
301-3	菅原裕書簡	菅原裕(葬儀委 員長)		昭和41年11月9 日	数量 1冊 内容 小畑の七了口上陸作戦について言及あり 記述法 印刷 備考 御会葬御礼 故荒木貞夫將軍 合綴注記 もと301-1の付属資料に収納
302	〔荒木貞夫先生米 寿祝賀会招待状〕	荒木貞夫先生 米寿祝賀会事 務局	小畑又雄	昭和39年4月14 日	数量 1枚+2枚+1枚+1枚 内容 招待状、振込用紙、返信用葉書、封筒 付属資料 荒木貞夫妻供物礼状(印刷)、1通 記述法 印刷
303	小畑一雄書簡	小畑一雄	酒井純次	昭和33年7月15 日	数量 1通 内容 暑中見舞い 記述法 電子式複写 合綴注記 もと134に収納。さらに142～144、158、303はもとビニル袋一括。
304	菅原裕書簡	菅原裕	小畑千鶴子・ 一雄	昭和23年11月2 5日	数量 1通 内容 荒木貞夫の東京裁判判決について 記述法 墨書、印刷 備考 封筒は一雄宛 合綴注記 もと326に収納
305	菅原裕書簡	菅原裕	小畑千鶴子・ 又雄	昭和36年8月10 日	数量 1通 内容 敏四郎命日に御霊前を送付 記述法 墨書 備考 封筒は又雄宛 合綴注記 もと326に収納

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
306	須山幸雄書簡一括	須山幸雄	小畑又雄	昭和55年10月1日～56年12月21日	<p>数量 19通</p> <p>内容 又雄氏の手により各書簡には①～⑨、⑪～⑯の番号が振られている。①が初めての書簡で、永田鉄山を調べたいので、小畑家に資料が残っていないか尋ねるもの、以降次第に小畑に関心が移っていく模様で、小畑伝執筆・出版の進捗状況を知らせるものとなる。</p> <p>付属資料 須山に送った原資料のリスト、1枚(⑦に付属)</p> <p>記述法 ペン</p> <p>備考 傍線の書込みあり。⑧は3通で⑧-2～3は葉書、⑫は2通で⑫-2は葉書。</p> <p>合綴注記 もとビニル紐一括。もと325に収納。</p>
307	須山幸雄書簡一括	須山幸雄	小畑又雄	昭和56年6月28日～57年10月22日	<p>数量 19通</p> <p>内容 又雄氏の手により各書簡には⑩、⑰～⑳の番号が振られている。伝記執筆進捗・出版状況等を知らせるもの。⑩は高知の小畑家の墓所についてレポートされている。</p> <p>記述法 ペン</p> <p>備考 ⑱、⑳は封筒なし</p> <p>合綴注記 もとビニル紐一括。もと325に収納。</p>
308	須山幸雄書簡一括	須山幸雄	小畑又雄	昭和58年2月8日～昭和62年1月19日	<p>数量 14通</p> <p>内容 伝記校正・出版状況、出版後の諸方面の感想を知らせるもの。</p> <p>付属資料 (1)昭和58年6月3日書簡に読書からの感想コピー、1枚/(2)昭和58年6月21日書簡に『山陰中央新報』の書評、1枚/(3)自衛官の感想コピー、1枚/(4)昭和58年9月12日書簡に『週刊読書人』の書評、1枚/(5)昭和62年1月19日書簡に新刊のチラシ、2枚</p> <p>記述法 ペン</p> <p>合綴注記 ビニル紐一括。もと325に収納。</p>
309	西田誼義書簡	西田誼義(神社新報社)	小畑又雄	昭和42年9月12日	<p>数量 1通</p> <p>内容 敏四郎写真の返送</p> <p>記述法 ペン</p> <p>備考 「写真在中」とあるが同封されていない</p> <p>合綴注記 もと160に収納</p>
310	浜地常勝書簡	浜地常勝	小畑又雄	〔昭和58年〕5月27日	<p>数量 1通</p> <p>内容 『作戦の鬼小畑敏四郎』感想</p> <p>記述法 ペン</p> <p>備考 浜地は満鉄駐在員</p> <p>合綴注記 311、314、320、322～325もとビニル紐一括。もと325に収納。</p>
311	藤江義一書簡	藤江義一(偕行社史料収集班長)	小畑又雄	平成4年5月16日	<p>数量 1通</p> <p>内容 偕行社の旧陸軍史料収集事業への協力を求める。</p> <p>付属資料 「史料収集についてお願い」、1枚</p> <p>記述法 ペン</p>

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
312	星野利光書簡	星野利光	〔小畑一雄〕	昭和27年1月	数量 1通 内容 恩師小畑閣下の霊前に捧ぐ。和歌。 記述法 墨書 備考 封筒なし 合綴注記 もと326に収納
313	元田信太郎書簡	元田信太郎	小畑又雄	〔昭和58年〕	数量 1通 内容 『作戦の鬼小畑敏四郎』感想 記述法 ペン 合綴注記 311、314、320、322～325もとビニル紐一括。もと325に収納。
314	〔封筒〕	森政三	小畑千鶴子	昭和36年9月25日	数量 1枚 記述法 ペン 備考 次男又雄氏整理によるものカ。森政三書簡の封筒を利用。 合綴注記 もと145～152、315を収納
315	森政三書簡	森政三	小畑千鶴子	〔昭和36年〕9月25日	数量 1通 内容 葉書。自己紹介(小畑と同県人で陸士で同期)。余命いくばくもなく、自分の死後捨てられる可能性がある小畑からもらった書簡を返したい。 記述法 ペン 備考 146～151は森によって返却されたものカ 合綴注記 もと314に収納
316	吉田茂書簡	吉田茂	小畑一雄	〔昭和22年〕1月22日	数量 1通 内容 御尊父御逝去は慙愧の極、折柄の政局にあい、訪問できず心外千万、何れ其内政局一段落の節、行きたい。 記述法 墨書
317	四元義隆書簡	四元義隆	小畑一雄	1月20日	数量 1通 内容 御書面につき微力を尽くしている。 記述法 墨書 合綴注記 もと326に収納
318	四元義隆書簡	〔四元義隆〕	小畑一雄	11月2日	数量 1通 内容 小畑先生の御顔を時々想起、先生御在世ならばと淋しい。 記述法 墨書 備考 封筒なし。差出人は端裏にボールペンで「四元氏」と記載。 合綴注記 もと326に収納
319	政狩三徳書簡	政狩三徳	小畑又雄	〔昭和58年〕5月3日	数量 1通 内容 『作戦の鬼小畑敏四郎』感想 記述法 ペン 備考 政狩は小畑の歩兵第10連隊時代の部下 合綴注記 311、314、320、322～325もとビニル紐一括。もと325に収納。

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
320	政狩三徳書簡	政狩三徳	小畑又雄	8月28日	数量 1通 内容 元大佐甲谷悦雄から調査した小畑の履歴について。 記述法 ペン 合綴注記 311、314、320、322～325もとビニル紐一括。もと325に収納。
321	政狩三徳書簡	政狩三徳	小畑又雄	11月2日	数量 1通 内容 和田清一の調査による小畑履歴 記述法 電子式複写 合綴注記 311、314、320、322～325もとビニル紐一括。もと325に収納。
322	三吉義隆書簡	〔三吉義隆〕	小畑又雄	〔昭和56年〕10月7日	数量 1通 内容 小畑の対ソ戦略について 記述法 ペン 備考 三吉は小畑の部下 合綴注記 311、314、320、322～325もとビニル紐一括。もと325に収納。
323	三吉義隆書簡	〔三吉義隆〕	小畑又雄	2月4日	数量 1通 内容 書籍貸与、感謝 記述法 ペン 備考 封筒なし。 合綴注記 311、314、320、322～325もとビニル紐一括。もと325に収納。
324	村上武書簡	村上武	小畑又雄	昭和58年7月16日	数量 1通 内容 『作戦の鬼小畑敏四郎』感想 付属資料 『紫雲』コピー、1綴 記述法 ペン 合綴注記 311、314、320、322～325もとビニル紐一括。もと325に収納。
325	〔封筒「伝記作成の来翰」〕	〔小畑又雄〕			数量 1枚 記述法 ペン、鉛筆 備考 次男又雄氏整理によるものカ 合綴注記 もと306、307、308、310、313、319、320、321、322、323、324を収納
326	〔封筒「父没後」〕				数量 1枚 記述法 ペン 備考 次男又雄氏整理によるものカ 合綴注記 もと261、300、304～305、312、317、318を収納

2.9 年代不明（資料番号327～335）

327	〔名刺〕	大谷敬二郎(東京憲兵隊本部勤務千葉憲兵隊分隊長)			数量 1枚 記述法 ペン、印刷
-----	------	--------------------------	--	--	--------------------

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
328	〔名刺〕	柳瀬博親(日本農学校)			数量 1枚 記述法 印刷
329	証	檀原神宮社務所	小畑敏四郎	昭和20年9月15日	数量 1枚 内容 玉串料 付属資料 封筒、1枚 記述法 墨書
330	官幣大社平安神宮				数量 1枚 内容 境内の絵 記述法 印刷
331	〔崇神天皇詔〕				数量 1枚 記述法 印刷
332	〔天皇検閲時写真〕				数量 1枚 内容 馬に乗った軍装の昭和天皇が将兵に答礼している。 付属資料 包紙、1枚 記述法 写真
333	〔和歌41歌〕	作成者不明			数量 1枚 内容 「妻の誕生日に」、「末女の上京を送る」、「四女の上京を送る」 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
334	〔和歌集〕	作成者不明			数量 4枚 内容 「昭和二十二年一月二十一日参上の途中にて」、「二十一年三月二十五日詠仕る当時差上たるものか」、「昭和二十一年五月十七日葉書にて」、「昭和十九年五月七日参上之節詠みたるもの」 記述法 墨書 合綴注記 もと162に収納
335	『日本人民外史』 【ほか一括】				
335-1	『日本人民外史』	〔大岸頼好〕			数量 1冊 内容 第一章 戦争責任者、戦争犯罪人 付属資料 資料収納封筒(国学院大学日本文化研究所)、1枚 記述法 謄写版(手書) 備考 筆者名は収納封筒(国学院大学日本文化研究所)に記載されていた。大岸は二二六事件で予備役編入された青年将校。
335-2	『日本人民外史』	〔大岸頼好〕			数量 1冊 内容 附表 付属資料 資料収納封筒(東京都)、1枚 記述法 謄写版(手書) 備考 筆者名は収納封筒(東京都)に記載

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
第二次受入分(資料番号336~404)					
1. 書簡・招待状等(資料番号336~389)					
336	〔観菊会招待状〕	一木喜徳郎(宮内大臣)	小畑敏四郎・令夫人	昭和5年11月1日	数量 1通 内容 来る11日の新宿御苑における観菊会 記述法 印刷
337	〔観桜会招待状〕	一木喜徳郎(宮内大臣)	小畑敏四郎・令夫人	昭和6年4月10日	数量 1通 内容 来る20日の新宿御苑における観桜会 付属資料 (1)正門参入自動車置場図、1枚/ (2)自動車入構証、1枚 記述法 印刷
338	〔午餐招待状〕	前田利男(秩父宮附宮内事務官)	小畑敏四郎	昭和6年11月5日	数量 1枚 内容 雍仁親王陸軍大学校御卒業に伴う来る25日の午餐会 記述法 印刷 合綴注記 資料番号339に同封
339	〔観菊会招待状〕	一木喜徳郎(宮内大臣)	小畑敏四郎・令夫人	昭和6年11月16日	数量 1通 内容 来る26日の新宿御苑における観菊会 記述法 印刷
340	〔午餐招待状〕	奥名清信(伏見宮附宮内事務官)	小畑敏四郎	昭和7年2月20日	数量 1通 内容 海軍軍令部長博恭王が来る24日に催す午餐会 記述法 印刷
341	〔晚餐招待状〕	浮田郷次(閑院宮附宮内事務官)	小畑敏四郎	昭和7年3月28日	数量 1通 内容 参謀総長載仁親王による来る4月4日の晚餐会 記述法 印刷
342	〔観桜会招待状〕	一木喜徳郎(宮内大臣)	小畑敏四郎・令夫人	昭和7年4月11日	数量 1通 内容 来る19日の新宿御苑における観桜会 付属資料 (1)正門参入者自動車置場図、1枚/ (2)自動車入構証、1枚 記述法 印刷
343	〔晚餐招待状〕	浮田郷次(閑院宮附宮内事務官)	小畑敏四郎	昭和7年6月17日	数量 1通 内容 参謀総長載仁親王による来る24日の晚餐会 記述法 印刷
344	〔陸軍・海軍両大臣招待状〕	荒木貞夫(陸軍大臣)・岡田啓介(海軍大臣)	小畑敏四郎	昭和7年6月18日	数量 1枚 内容 来る25日に上野精養軒にて粗餐差上進 記述法 印刷 合綴注記 資料番号345に同封

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
345	〔午餐招待状〕	奥名清信(伏見宮附宮内事務官)	小畑敏四郎	昭和7年6月21日	数量 1通 内容 海軍軍令部長博恭王が来る26日に催す午餐会 記述法 印刷
346	〔御陪食招待状〕	一木喜徳郎(宮内大臣)	小畑敏四郎	昭和7年7月1日	数量 1通 内容 来る5日の御陪食 記述法 印刷
347	〔晚餐招待状〕	浮田郷次(閑院宮附宮内事務官)	小畑敏四郎	昭和7年9月1日	数量 1通 内容 参謀総長載仁親王による来る9日の晚餐会 記述法 印刷
348	〔明治節宴会招待状〕	一木喜徳郎(宮内大臣)	小畑敏四郎	昭和7年10月20日	数量 1通 内容 来る11月3日に宮中で催される宴会 記述法 印刷
349	〔観菊会招待状〕	一木喜徳郎(宮内大臣)	小畑敏四郎・令夫人	昭和7年11月1日	数量 1通 内容 来る8日の新宿御苑における観菊会 記述法 印刷
350	〔賜饞招待状〕	一木喜徳郎(宮内大臣)	小畑敏四郎	昭和7年11月1日	数量 1通 内容 陸軍特別大演習(14日)終了後の歩兵大阪第8連隊営内で催される賜饞 記述法 印刷
351	〔午餐招待状〕	浮田郷次(閑院宮附宮内事務官)	小畑敏四郎	昭和7年11月18日	数量 1通 内容 参謀総長載仁親王による来る24日の午餐会 記述法 印刷
352	〔午餐招待状〕	梶田文太郎(賀陽宮附宮内事務官)	小畑敏四郎	昭和7年11月21日	数量 1通 内容 来る26日に霞関離宮で催される午餐会 付属資料 注意書、1枚 記述法 印刷
353	〔晚餐招待状〕	浮田郷次(閑院宮附宮内事務官)	小畑敏四郎	昭和8年1月16日	数量 1通 内容 参謀総長載仁親王が来る24日に催す晚餐会 記述法 印刷
354	〔御陪食招待状〕	湯浅倉平(宮内大臣)	小畑敏四郎	昭和8年3月23日	数量 1通 内容 来28日の御陪食 付属資料 午餐献立、1枚 記述法 印刷
355	〔観桜会招待状〕	湯浅倉平(宮内大臣)	小畑敏四郎・令夫人	昭和8年4月11日	数量 1通 内容 来る20日の新宿御苑における観桜会 付属資料 (1)入苑証、1枚/(2)自動車入構証、1枚/(3)正門参入者自動車置場図、1枚 記述法 印刷

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
356	〔天長節宴会招待状〕	湯浅倉平(宮内大臣)	小畑敏四郎	昭和8年4月22日	数量 1通 内容 来る29日に宮中で催される宴会 付属資料 注意書、1枚 記述法 印刷
357	荒木貞夫書簡 小畑敏四郎宛	荒木貞夫	〔小畑敏四郎・令夫人〕	昭和8年4月24日	数量 1通 内容 入院中の見舞に対する礼状 記述法 印刷
358	〔陸軍航空本部行幸〕	杉山元(陸軍航空本部長)	小畑敏四郎	昭和8年4月25日	数量 9枚 内容 招待状、「陸軍航空本部行幸御次第書」、「天覧飛行演習主要課目」、「奉迎(送)諸官整列位置ノ図」他 記述法 印刷
359	〔閑院宮招待状〕	浮田郷次(閑院宮附宮内事務官)	小畑敏四郎	昭和8年4月30日	数量 1通 内容 来る5月13日に載仁親王より茶菓を賜る 付属資料 注意書、1枚 記述法 印刷
360	〔晚餐招待状〕	浮田郷次(閑院宮附宮内事務官)	小畑敏四郎	昭和8年5月16日	数量 1通 内容 参謀総長載仁親王による来る5月22日の晚餐会 記述法 印刷
361	〔晚餐招待状〕	浮田郷次(閑院宮附宮内事務官)	小畑敏四郎	昭和8年6月19日	数量 1枚 内容 参謀総長載仁親王による来る21日の晚餐会 記述法 印刷 合綴注記 資料番号387に同封
362	〔午餐招待状〕	奥名清信(伏見宮附宮内事務官)	小畑敏四郎	昭和8年6月28日	数量 1通 内容 海軍軍令部長博恭王による来る6月28日の午餐会 記述法 印刷
363	〔午餐招待状〕	池田亀雄(東久邇宮附宮内事務官)	小畑敏四郎	昭和8年8月3日	数量 1通 内容 稔彦王陸軍中将昇進第2師団長転補に付き来る8月5日に催される午餐会 付属資料 (1)昭和10年8月5日午餐献立、1枚 ／(2)昭和8年8月2日晚餐献立、1枚 記述法 印刷
364	〔賜銭招待状〕	湯浅倉平(宮内大臣)	小畑敏四郎	昭和8年8月10日	数量 1通 内容 特別大演習観艦式(25日)後に軍艦高雄で賜銭 記述法 印刷
365	〔午餐招待状〕	梶田文太郎(賀陽宮附宮内事務官)	小畑敏四郎	昭和9年2月23日	数量 1通 内容 恒憲王欧米旅行に付き来る3月6日に霞閑離宮で催される午餐会 記述法 印刷
366	〔午餐招待状〕	谷口利三郎(閑院宮附宮内事務官)	小畑敏四郎	昭和9年7月26日	数量 1通 内容 参謀総長載仁親王による8月2日の午餐会 記述法 印刷

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
367	〔午餐招待状〕	谷口利三郎(閑院宮附宮内事務官)	小畑敏四郎	昭和9年9月27日	数量 1通 内容 賀陽宮恒憲王帰朝歓迎のため参謀総長載仁親王による来る10月2日の午餐会 付属資料 (1)午餐会献立、1枚/(2)名札、1枚/(3)昭和9年11月27日午餐献立、1枚 記述法 印刷
368	〔賜餞招待状〕	湯浅倉平(宮内大臣)	小畑敏四郎	昭和9年11月1日	数量 1通 内容 陸軍特別大演習(14日)終了後の高崎市歩兵第15連隊営内における賜餞 付属資料 賜餞場(歩兵第十五聯隊)配置図、1枚 記述法 印刷
369	〔観菊会招待状〕	湯浅倉平(宮内大臣)	小畑敏四郎・令夫人	昭和9年11月1日	数量 1通 内容 新宿御苑における来る8日の観菊会 付属資料 (1)自動車入構証、1枚/(2)正門参入者自動車置場図、1枚 記述法 印刷
370	〔御陪食招待状〕	湯浅倉平(宮内大臣)	小畑敏四郎	昭和9年11月11日	数量 1通 内容 来る13日の大本営における御陪食 付属資料 晚餐献立、1枚 記述法 印刷
371	〔午餐招待状〕	梶田文太郎(賀陽宮附宮内事務官)	小畑敏四郎	昭和9年11月22日	数量 1通 内容 恒憲王欧米旅行御帰朝に付き来る27日に霞閑離宮で催される午餐会 記述法 印刷
372	〔晚餐招待状〕	浮田郷次(閑院宮附宮内事務官)・谷口利三郎(閑院宮附宮内事務官)	小畑敏四郎	昭和7年12月20日・昭和9年12月27日	数量 2通 内容 参謀総長載仁親王による晚餐会 記述法 印刷 備考 2通を同封
373	〔観桜会招待状〕	湯浅倉平(宮内大臣)	小畑敏四郎・令夫人	昭和10年4月12日	数量 1通 内容 来る23日の新宿御苑における観桜会 記述法 印刷
374	〔天長節宴会招待状〕	湯浅倉平(宮内大臣)	小畑敏四郎	昭和10年4月20日	数量 1通 内容 来る29日の宴会 付属資料 注意書、1枚 記述法 印刷
375	〔午餐招待状〕	犬塚力(北白川宮附宮内事務官)	小畑敏四郎	昭和10年4月26日	数量 1通 内容 永久王御結婚に付き来る5月2日に催される午餐会 記述法 印刷 合綴注記 資料番号387に同封
376	〔午餐招待状〕	前田利男(秩父宮附宮内事務官)	小畑敏四郎	昭和10年7月24日	数量 1通 内容 雍仁親王参謀本部御転出に付き来る8月5日の午餐会 付属資料 昭和10年5月2日午餐献立、1枚 記述法 印刷

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
377	〔午餐招待状〕	宮野安(賀陽宮 附宮内事務官)	小畑敏四郎	昭和10年7月28 日	数量 1通 内容 恒憲王による来る8月4日の午餐会 付属資料 (1)午餐献立、1枚/(2)注意書、1枚 記述法 印刷
378	〔観菊会招待状〕	松平恒雄(宮内 大臣)	小畑敏四郎・ 令夫人	昭和11年10月3 0日	数量 1通 内容 来る20日の新宿御苑における観菊会 付属資料 (1)入苑証、1枚/(2)自動車入構 証、1枚/(3)正門参入者自動車置場図、1枚 記述法 印刷
379	〔賜饌招待状〕	湯浅倉平(宮内 大臣)	小畑敏四郎	昭和10年11月1 日	数量 1通 内容 陸軍特別大演習・海軍特別演習(13日)終 了後の宮崎県歩兵第23連隊営内における賜饌 付属資料 注意書、同文2枚 記述法 印刷
380	〔午餐招待状〕	折田有彦(朝香 宮附宮内事務 官)	小畑敏四郎	昭和10年12月1 3日	数量 1枚 内容 鳩彦王軍事参議官親補に付き20日の午餐 会 付属資料 午餐献立、1枚 記述法 印刷 合綴注記 資料番号387に同封
381	〔紀元節宴会招待 状〕	湯浅倉平(宮内 大臣)	小畑敏四郎	昭和11年2月1日	数量 1通 内容 来る11日の宴会 記述法 印刷
382	〔晚餐招待状〕	古川義天(竹田 宮附宮内事務 官)	小畑敏四郎	昭和11年2月17 日	数量 1通 内容 竹田宮邸における来る22日の晚餐会 記述法 印刷
383	〔新年宴会招待 状〕	松平恒雄(宮内 大臣)	小畑敏四郎	昭和11年12月2 1日	数量 1通 内容 来る1月5日に宮中で行なわれる宴会 付属資料 (1)参内券、1枚/(2)自動車入構 証、1枚/(3)注意書、1枚 記述法 印刷
384	〔観桜会招待状〕	松平恒雄(宮内 大臣)	小畑敏四郎・ 令夫人	昭和12年4月5日	数量 1通 内容 来る16日の新宿御苑における観桜会 記述法 印刷
385	〔御陪食招待状〕	松平恒雄(宮内 大臣)	小畑敏四郎	昭和13年4月2日	数量 1通 内容 来る5日に御陪食のために参内 付属資料 午餐献立、1枚 記述法 印刷
386	〔御陪食招待状〕	石渡荘太郎(宮 内大臣)	小畑敏四郎	昭和20年10月1 2日	数量 1通 内容 来る15日に御陪食のために参内 付属資料 午餐献立、1枚 記述法 印刷

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
387	〔午餐献立〕			昭和7年6月26日 ～10年11月29日	数量 6通 内容 昭和7年6月26日・同7月5日・8年7月5日・同8月5日・同9月21日・10年1月29日のもの 付属資料 封筒、1枚 記述法 印刷
388	小畑敏四郎書簡 小畑一雄宛	〔小畑敏四郎〕	〔小畑一雄〕	5月15日	数量 1通 内容 長城の上を飛行機で飛んだこと、月末又は6月2日頃帰国予定 付属資料 封筒、1枚 記述法 鉛筆 用紙 大連ヤマトホテル絵葉書
389	〔名札〕				数量 1枚 内容 午餐用の名札 記述法 墨書

2. 書類（資料番号390～404）

2.1 予備役時代
(1936～45年)
(資料番号390～392)

390	昭和十一年八月退職二際シ閑院宮参謀総長殿下ヨリ賜ハル	〔載仁親王〕	〔小畑敏四郎〕	昭和11年8月	数量 1枚 内容 健康のための退職は遺憾 付属資料 封筒、1枚 記述法 墨書
391	〔陸軍関係 昭和13年〕				
391-1	〔陸軍大臣通知〕	杉山元(陸軍大臣)	小畑敏四郎	昭和13年3月30日	数量 1枚 内容 本文は陸密第323号「拝謁ノ件達」、付属資料(1)は奏上・御陪食の件について 付属資料 (1)参考資料、1綴/(2)包紙、1枚 記述法 印刷 合綴注記 資料番号391-1～6は包紙で一括
391-2	師団長会議席次			昭和13年4月	数量 1枚 記述法 印刷
391-3	各宮御殿竝元帥宮御殿廻礼順路				数量 1枚 内容 宮邸(皇族・朝鮮王公族)・所在地を順に記載 記述法 印刷
391-4	上奏写	小畑敏四郎		昭和13年4月5日	数量 1綴 内容 留守第14師団の実況について上奏 記述法 墨書 用紙 陸軍罫紙

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
391-5	美談集抜粋	第十四師団司令部		昭和13年3月	数量 1綴 内容 出征者家族への無料往診をした医者についての美談他 記述法 印刷
391-6	〔司令官師団長等宿所表〕			昭和13年4月	数量 1枚 内容 防衛司令官・航空兵団長・師団長・軍司令官の氏名・宿所 記述法 印刷
392	〔陸軍省封筒〕				数量 1枚 内容 空封筒。表に内容目録あり 記述法 印刷

2.2 国務大臣時代(1945年) (資料番号393～394)

393	閣議備忘	〔小畑敏四郎〕		〔昭和20年〕	数量 1袋(26枚) 内容 昭和20年8～9月頃の閣議で作成された備忘録の束 付属資料 大岸頼好封筒、1枚 記述法 鉛筆
394	第八十八回臨時議会 昭和20年9月5日 議会提出関係事実				備考 タイトルは封筒より
394-1	〔封筒〕			昭和20年9月5日	数量 1枚 記述法 墨書
394-2	〔帝国議会に対する終戦経緯報告書(外務省)ほか〕				数量 1枚(16p) 内容 外務省、内務省、厚生省、運輸省、農林省による報告 記述法 印刷
394-3	大東亜戦争中陸軍関係損耗表	陸軍省			数量 1枚 内容 人員損耗、飛行機生産・損耗 記述法 印刷
394-4	大東亜戦争中海軍関係損耗表	海軍省			数量 1枚 内容 軍人・軍属戦没者一覧、艦艇損耗、航空機損耗 記述法 印刷
394-5	軍需生産二関スル資料(商工省)	商工省			数量 1綴 内容 重要物資生産実績、航空機生産実績、空襲等による生産能力喪失他 記述法 印刷
394-6	大東亜戦争中二於ケル重要財政金融資料(大蔵省)	大蔵省			数量 1綴 内容 昭和15年度以降。歳入、歳出、予算、日本銀行券・国債発行、臨時軍事費 他 記述法 印刷

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
394-7	大東亜戦争開始以来八月十五日迄ノ空襲被害調(内務省)	内務省			数量 1枚 内容 都道府県別の死傷者・焼壊・罹災者 記述法 印刷
394-8	本邦保有船腹増加ト減少推移状況(汽船)	運輸省			数量 1枚 内容 年度四半期別の増加・減少船腹 記述法 印刷

2.3 履歴資料等
(資料番号395～401)

395	大日本帝国外国勲章佩用免許証	正親町美正(賞勲局総裁)・藤井善言(賞勲局書記官)	小畑敏四郎	大正6年3月14日	数量 1枚 内容 ロシア皇帝より贈与した神聖アンナ剣附第二等勲章受領と佩用の允許 記述法 印刷
396	大日本帝国外国勲章佩用免許証	下条康麿(賞勲局総裁)・伊手衡(賞勲局書記官)	小畑敏四郎	昭和9年5月9日	数量 1枚 内容 満洲国皇帝より贈与した勲二等景雲章受領と佩用の允許 記述法 印刷・墨書
397	大日本帝国外国勲章佩用免許証	下条康麿(賞勲局総裁)・宇都宮孝平(賞勲局書記官)	小畑敏四郎	昭和10年9月21日	数量 1枚 内容 満洲国皇帝より贈与した満洲帝国皇帝訪日記念章受領と佩用の允許 記述法 印刷・墨書
398	辞令(任国務大臣)	稔彦王(内閣総理大臣)	小畑敏四郎	昭和20年8月19日	数量 1枚 付属資料 封筒、1枚 記述法 墨書 合綴注記 資料番号398～400は封筒一括
399	位記(叙従三位)	石渡荘太郎(宮内大臣)	小畑敏四郎	昭和20年9月1日	数量 1枚 記述法 墨書
400	辞令(依願免本官)	幣原喜重郎(内閣総理大臣)	小畑敏四郎(国務大臣)	昭和20年10月9日	数量 1枚 内容 国務大臣免官 記述法 墨書
401	〔小畑美稲関係書類〕				
401-1	〔写真帳〕(小畑美稲葬儀)			〔大正11年11月〕	数量 1冊 内容 絶筆、葬儀の様子、美稲肖像写真 付属資料 拓本、1枚 記述法 写真
401-2	写真(御重態中之御訓詠)	〔小畑美稲〕		〔大正11年〕	数量 1枚 記述法 写真
401-3	写真(重篤時之述懐)	〔小畑美稲〕		〔大正11年〕	数量 1枚 記述法 写真
401-4	写真(小畑美稲葬儀)			〔大正11年11月〕	数量 5枚 内容 神式葬儀・出棺 記述法 写真

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等
401-5	〔土佐勤王党〕				数量 同文2綴 内容 文久年間の武市半平太の行動、小畑美稻等の投獄 記述法 墨書
401-6	〔小畑美稻履歴〕				数量 1綴 内容 明治年間の職歴 記述法 墨書
401-7	十一月十六日葬儀 当日次第書			〔大正11年11月〕	数量 1綴 内容 勅使参向、出棺 記述法 墨書
401-8	〔小畑美稻葬送行列図〕			〔大正11年11月〕	数量 1枚 記述法 墨書

2.4 その他（資料番号402～404）

402	大日本帝国政府 支那事変行賞 賜金国庫債券(壹千円、壹百円)	大蔵大臣	小畑敏四郎	昭和15年[発行]	数量 2枚 記述法 印刷
403	南満洲鉄道株式会社株券	仙石貢(南満洲鉄道総裁)・大村卓一(南満洲鉄道総裁)	小畑千鶴子		数量 6枚 記述法 印刷
404	鴨獵				数量 1部 内容 鴨獵の説明 記述法 印刷